

研究主題

言語活動の充実に関する研究（2年次）

目次

第1	研究の概要	40
第2	研究の背景とねらい	
1	研究の背景	41
2	1年次の研究成果と課題	41
3	「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」についての再分析	42
(1)	言語活動としての要素	42
(2)	言語活動を支える基盤	43
(3)	「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」の位置付け	44
(4)	「自分の言葉で表現する」とは	45
4	2年次の研究のねらいと視点	
(1)	研究のねらい及び研究仮説	46
(2)	研究の視点	47
第3	研究の方法	47
第4	研究の内容	48
1	調査研究	48
(1)	生徒を対象とした調査の結果及び分析	48
(2)	教師を対象とした調査の結果及び分析	48
(3)	調査結果からの考察	53
2	開発研究	54
(1)	「言語活動シート」の開発	54
(2)	「言語活動シート」を活用した指導事例の作成	58
3	検証授業の結果と分析、考察	58
(1)	検証授業の概要	58
(2)	検証の視点	58
(3)	検証の方法	58
(4)	検証授業の結果	58
(5)	検証のまとめ	61
4	言語活動の充実を目指した校内研修の取組	61
(1)	「言語活動の充実」をテーマにした校内研究の取組例	61
(2)	言語環境を整えるための方策	62
第5	研究の成果と今後の取組	62
参考文献等		63
資料	各教科の目標の実現を図る言語活動を取り入れた指導事例	64
	国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 外国語	

＜研究の成果と活用＞

1 研究の成果

- (1) 教科の特性に応じた言語活動の在り方や指導の工夫を示した「言語活動シート」の開発
- (2) 調査委員との連携による「言語活動シート」を活用した指導事例の作成

2 研究成果の活用

- (1) パンフレット「言語活動の充実に向けて」の作成及び区市町村教育委員会及び都内公立小中学校への配布
- (2) 「言語活動シート」、指導事例及びパンフレットの活用により、各教科における授業改善を推進

第1 研究の概要

言語活動の充実に関する研究

研究の背景（○社会における背景 ●学校における背景）

- 知識基盤社会等に伴う生きる力の育成の重視
- 思考力・判断力等が十分でない(各種学力調査)
- 学力の三つの要素の規定(学校教育法第30条)
- 各教科等における言語活動の充実(学習指導要領)
- 言語活動は授業で従来から取り入れられている。
- 言語活動の充実を図るための方策は十分ではない。

関連施策等（◇文部科学省の施策 ◆東京都の施策）

- ◇言語能力育成協力者会議
- ◇言語活動の充実に関する指導事例集（小学校版及び中学校版）
- ◆児童・生徒の学力向上を図るための調査
- ◆第二次東京都子供読書推進計画（第一次及び第二次）
- ◆言語能力向上推進事業（平成23年度から）

目指す児童・生徒像

国語科で身に付けた技能を基に、習得した教科等の知識・技能を活用し、よく考え、判断して、自分の言葉で表現できる児童・生徒

研究のねらい

教科等の目標を実現するための言語活動を効果的に位置付けた指導の在り方の開発

研究仮説

教科等の特性に応じた学習活動や他者と伝え合う活動を、言語活動として、意図的・計画的に単元（題材）の指導計画や1単位時間に設定すれば、よく考え、判断して、自分の言葉で表現できる児童・生徒が育つであろう。

1年次

教科等共通の言語活動の在り方

研究の成果

- 公立小学校における言語活動の充実に関する実態の把握及び指導上の課題の明確化
- 「言語活動としての要素」「言語活動を支える基盤」の開発
- 効果的な言語活動の在り方の構造化
- 単元（題材）の指導計画及び1単位時間への「要素」「基盤」の効果的な位置付け方の例示
- 「言語活動関連一覧」（以下「一覧」と表記。）の開発
- 「一覧」を活用した単元（題材）の指導計画例の提示
- 「一覧」を活用した1単位時間の学習指導例の提示
- 言語活動の組織的な取組例の提示

研究の課題

- 他の校種における、言語活動の充実を図るための指導の在り方や、組織的な取組について明らかにする。

研究成果の普及

- パンフレット「言語活動の充実に向けてこうすればできる！言語活動を位置付けた授業改善～」の作成と都内公立小学校全教員への配布
- 都教委訪問モデルプラン「言語活動の充実に向けて」の実施

2年次

教科の特性に応じた言語活動(9教科)

基礎研究

- ◎ 「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」の再分析
 - ・ 先行文献に基づく分析
 - ・ 授業観察（東京教師道場助言者等による授業）に基づく分析

調査研究

- ◎ 公立中学校における言語活動の充実に関する実態の把握及び指導上の課題の明確化
 - ・ 生徒：言語活動に関する意識
 - ・ 教員：教科における言語活動についての取組の実態

開発研究・検証

- ◎ 教科の特性に応じた言語活動の在り方の明確化
 - 調査委員（公立中学校教員）との連携
 - ・ 効果的な言語活動の位置付け方や指導の工夫を示した「言語活動シート」の開発
 - ・ 「言語活動シート」を活用した指導事例の作成
- 言語活動の充実を目指した校内研修の取組例の提示

研究成果の活用

パンフレット「言語活動の充実に向けて～教科の特性を生かした言語活動と指導計画～」の作成及び都内公立小中学校への配布

第2 研究の背景とねらい

1 研究の背景

知識基盤社会やグローバル化に伴い、生きる力を育むことがますます重要になっている。このような中、教育基本法、学校教育法が改正され、知・徳・体のバランスとともに、学力の三つの要素として基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を重視し、学校においてはこれらを調和的に育むことが必要であることが学習指導要領に示された。

この理念の具現化に向けた学習指導要領の改訂の基本方針の一つとして、思考力・判断力・表現力等の育成が示され、教科等において言語活動の充実を図ることが求められている。教科等においては、国語科で身に付けた技能を基に、それぞれの教科等の目標を実現する手だてとして、知的活動(論理や思考)やコミュニケーション、感性・情緒の基盤といった言語の役割を踏まえて、言語活動を充実させる必要がある。

学習指導要領の改訂に伴い、各学校においては言語活動の充実を図るための取組が活発に行われている。「平成23年度教育課程の編成・実施状況〔公立幼稚園・小学校・中学校〕」（東京都教育委員会）では、小学校では84.5%（調査対象1,308校）、中学校では81.9%（調査対象632校）が「言語活動の充実に関する指導」を指導の重点としていることが明らかにされている。また、言語活動の充実に関わる当センターで実施している都教委訪問を通して、小学校だけでなく中学校においても、学校全体で言語活動の充実に積極的に取り組んでいる実態を把握することができた。

しかし昨年度、本研究において、言語活動の充実を図るための取組について都内公立小学校教員を対象に調査を行った結果、言語活動の充実を図るための取組を、「発表や話し合い中心の授業とすること」と捉える傾向が見られ、言語活動を取り入れること自体が目的化しているという実態が明らかになった。また、「言語活動の捉え方について共通理解を図ることが難しい」と捉える傾向も見られた。これらの調査結果から、言語活動を取り入れる目的を明確に示し、日々の授業において言語活動を効果的に取り入れるための具体的な方策を追究し、明らかにしていく必要があると捉えた。

2 1年次の研究成果と課題

1年次の研究では、言語活動は教科等の目標や授業のねらいを実現するための手だてであり、言語活動を充実させるためには、自分の考えをもち、自分の言葉で適切に表現する活動と、他者との伝え合いを通して思考を深める活動を、意図的・計画的に取り入れる必要があるという考えの下、以下のとおり開発、提案を行った。

- 公立小学校における言語活動の充実に関する実態の把握及び指導上の課題の明確化
- 「言語活動としての要素」の開発
- 「言語活動を支える基盤」の開発
- 効果的な言語活動の在り方（「要素」と「基盤」の構造化）
- 単元（題材）の指導計画及び1単位時間への「要素」と「基盤」の効果的な位置付け方の提示
- 「言語活動関連一覧」の開発
- 「言語活動関連一覧」を活用した単元（題材）の指導計画例の提示
- 「言語活動関連一覧」を活用した1単位時間の学習指導例の提示
- 言語活動の組織的な取組例（授業研究の工夫、校内研修会の工夫、言語環境の工夫）の提示

1年次は、主に小学校における指導に焦点化した研究内容であり、9年間を見通した子供の学びの視点から、中学校における言語活動の充実を図るための具体的方策等、さらに研究を深めることが課題として示された。

3 「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」についての再分析

教科の指導に当たっては、児童・生徒の思考力・判断力・表現力等を育む観点から、国語科で身に付けた技能を基に、習得した教科の知識・技能の活用を図る言語活動を取り入れる必要がある。2年次の研究は、1年次の研究で開発した『言語活動としての要素』及び『言語活動を支える基盤』（図1参照）について、調査委員等の授業実践を通して効果を検証し、以下のように再分析を行った。

(1) 言語活動としての要素

1年次の研究では、言語活動を充実させるためには、「自分の考えをもち、自分の言葉で適切に表現する活動」と「他者との伝え合いを通して思考を深める活動」を、意図的・計画的に取り入れる必要があることが分かった。そして、「要素Ⅰ 自己の思考」、「要素Ⅱ 伝え合い」、「要素Ⅲ 思考のまとめ」の三つの要素を「言語活動としての要素」として、言語活動を行う際に指導計画に効果的に位置付けることの重要性を提案した。1年次の研究では、次のように整理した。

言語活動としての要素とは 【要素Ⅰ 自己の思考】 ○ 学習の課題に対して自分の考えをもち。 ○ 自分の考えをどのように表現するか考える。 【要素Ⅱ 伝え合い】 ○ 他者との伝え合いを通して、多様なものの見方・考え方に触れる。 【要素Ⅲ 思考のまとめ】 ○ 他者との伝え合いを通して、再び自分の考えを深める。 ○ 自分の考えを自分の言葉で、他者によりよく表現する。
--

ア 「要素Ⅰ 自己の思考」の再分析

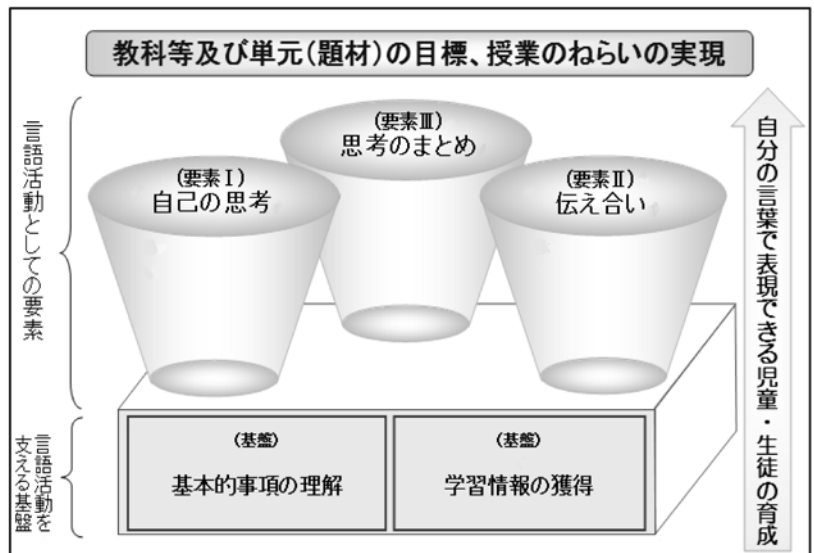
「要素Ⅰ 自己の思考」は、学習の課題に対して自分の考えをもち、それをどのように表現するかを考える活動である。

学習の課題について自分の考えをもちするためには、児童・生徒が、観察、実験、調査、見学、資料等の学習情報を獲得する必要がある。そして、それらの学習情報からどのように資料を読み取ったり分析したりするのかなど、学習情報の扱い方を児童・生徒に理解させるとともに、児童・生徒がもった考えは、既習内容を踏まえているものなのかを検討し、既習内容に基づいた「根拠のある自分の考え」にする必要がある。

例えば、社会科では、二つの資料を比較した結果から「根拠のある自分の考え」をもちことができ、理科では、実験で予想を立てる際に、既習内容や自らが体験したことなどから「根拠のある自分の考え」をもちことができると考える。

教師は、机間指導等を通して児童・生徒の表現を把握し、児童・生徒一人一人及び全体に向けて「言語活動を支える基盤」として身に付けた基本的事項や獲得した学習情報を活用するよう促し、指導を行う必要がある。

このようにして「根拠のある自分の考え」を明確にしておくこと



によって、「要素Ⅱ 伝え合い」を効果的に行うことができる。

イ 「要素Ⅱ 伝え合い」の再分析

「要素Ⅱ 伝え合い」は、他者との伝え合いを通して、多様なものの見方や考え方に触れる活動である。

伝え合いを通して様々な人々の考えを知ることにより、自分の学びからは気付かなかった情報を得ることができる。また、同じ事柄であっても、感じ方や考え方はその人の捉え方によって異なる場合があり、そのことに気付くことによって自分の考えを広げ、深めることができる。

例えば、国語科では、場面の情景や登場人物の会話から、「要素Ⅰ 自己の思考」で自分が想像した登場人物の気持ちを他者と伝え合うことにより、物語のイメージを膨らませることができ、算数・数学科では、答えの導き方をグループや学級で説明し合うことにより様々な解決方法を知ることができると考える。

教師は、児童・生徒が自分の考えを明確にもちながらも、友達のことを聞き、受け入れ、様々な気付きや学びを獲得できるようにする活動を意図的に設定していくことが必要である。

ウ 「要素Ⅲ 思考のまとめ」の再分析

「要素Ⅲ 思考のまとめ」は、「要素Ⅱ 伝え合い」で他者の考えに触れる活動を通して、再び自分の考えを構成し、考えを深める活動である。そして、この活動を通して深めた自分の考えを、自分の言葉で他者によりよく表現できるようにする活動である。

例えば、社会科では、「要素Ⅰ 自己の思考」や「要素Ⅱ 伝え合い」で自分の考えたことに付け加えたり修正したりしたことを、ポスターセッション等で表現することなどが考えられる。他者から新たな視点を得ることで、自分の考えがより確かなものとなったり、自分の考え方が変わったりすることに大きな価値があると考える。

教師は、児童・生徒の考えが、より確かなものとなったり変わったりしたことを、児童・生徒の発言やノート等の記述などから把握し、積極的に認めることが必要である。また、児童・生徒のこれまでの学びの過程を認め、次の学習に取り組む意欲をもたせるようにすることが大切である。

(2) 言語活動を支える基盤

1年次の研究では、言語活動を行う際の前提として、「自分の考えを説明するために必要な語彙と基礎的・基本的な知識」と「相手に分かりやすく説明するために必要な方法」を習得させる必要があることが分かった。そして、指導計画に位置付けた「言語活動としての要素」を効果的に行うために必要となる基礎的・基本的な知識等を「言語活動を支える基盤」としてまとめ提案した。1年次の研究では、次のように整理した。

言語活動を支える基盤とは

【基本的事項の理解】

- 学習内容の基本的事項を理解する。
- 各教科等に必要な用語や記号及び表現を理解する。

【学習情報の獲得】

- 体験などを含めた広い意味での「教材」から情報を得る。

ア 「基本的事項の理解」の再分析

「基本的事項の理解」は、言語活動を行う際の前提となる学習内容の基本的事項を理解したり、各教科等に必要な用語や記号及び表現を理解したりすることである。

学習内容の基本的事項とは、学習指導要領解説に示されている教科の内容の中で、主に教師が教える新たな知識を指す。教科に必要な用語や記号及び表現とは、各学年で習得する必要があるものとして教科の学習指導要領解説に示されている用語や記号及び表現のことである。そして、それらを活用した表現方法を理解することが、言語活動を行う際の前提となる。

例えば、理科で実験を伴う学習では、まず、実験器具の名称やその使い方などを正しく理解することが学習を行う前提となる。また、社会科では「『我が国は北半球にあり、ユーラシア大陸の東方に位置し、太平洋と日本海などに囲まれている』（中略）などのように、我が国の位置を世界の広がりの中でとらえ、言い表すことができるようにすることが大切である。」（小学校学習指導要領解説社会編 平成20年8月）とあるように、教科において各学年で習得する用語を用いて、自分の考えを表現することが必要となる。

教師は、単元や1単位時間を通して、児童・生徒にどのような力を身に付けさせるのか、教科及び単元（題材）の目標や授業のねらいを明確にし、習得させるべき基本的事項を確実に理解させることが必要である。

イ 「学習情報の獲得」の再分析

「学習情報の獲得」は、体験などを含めた広い意味での「教材」から情報を得ることである。例えば、観察や実験、調査、見学をしたり、資料を読み取ったりして学習情報を収集することである。

また、「学習情報の獲得」には、前時の学習内容を活用し、そこから学習情報を得ることも含まれている。

例えば、前時までのノートやワークシート、教科書などを読み返して、これまでの学習内容や考え方を活用して考えたり伝え合ったりすることが挙げられる。

教師は、観察や実験及び体験等の学習活動を、指導計画に意図的に位置付け、児童・生徒が主体的に学習情報を獲得できるようにする必要がある。また、毎時間の学習内容を、学習履歴としてノート等に蓄積させ、効果的に活用できるようにするとともに、既習内容の活用を促す指導を行う必要がある。

(3) 「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」の位置付け

2年次の研究においても、「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」はそれぞれが独立し、一方のみが重点的に指導されるのではなく、双方が一体となって学習活動を展開するものと捉えた。また、教師の指導においては、自分の言葉で表現できる児童の育成を目指し、「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」を教科の目標や授業のねらいを実現するための手だてとしていくことを確認した（図1参照）。

さらに、東京教師道場助言者等による授業の観察を行い、それらの授業記録を基に「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」の位置付けについて検証を行った。その結果、次の2点について明確にすることができた。

ア 「言語活動としての要素」と「言語活動を支える基盤」との関連

「言語活動を支える基盤」は、それぞれの「言語活動としての要素」を位置付けるのに必要な知識や技能、学習情報等を指す。「言語活動としての要素」に対応した「言語活動を支える基盤」が何かを把握することで、生徒の学習状況に応じて、基本的事項を指導する、既習事項を想起させる、既習

事項の活用を促す、資料や体験等から学習情報を獲得させるといった意図的・計画的な指導の工夫が可能になる。このことにより、「言語活動としての要素」をより効果的に実施することができる。

例えば、「要素Ⅰ 自己の思考」として、児童・生徒が「根拠のある自分の考え」をもつためには、実験、観察、調査、見学、資料等で学習情報を獲得したり、既習内容を想起したりすることが必要になる。また、自分の考えを、自分の言葉で適切に表現するためには、学習指導要領解説に示された用語等の基本的事項を習得することが必要になる。

イ 「言語活動としての要素」の位置付け方

「言語活動としての要素」は、単元（題材）の指導計画全体にわたって要素Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを位置付ける必要があると考える。また、指導計画に要素を位置付ける際は、教科・単元（題材）の目標の実現のために効果的な言語活動として、重点的に位置付けることが必要である。

また、1単位時間の授業においては、前時までの学習内容を踏まえて「要素Ⅱ 伝え合い」が主な学習活動となったり、「要素Ⅰ 自己の思考」と「要素Ⅱ 伝え合い」を通して全体でまとめるという授業展開になったりする場合もある。つまり、必ずしも全ての要素を1単位時間の中に重点的に位置付けなければならないものではないということである。

また、東京教師道場助言者や調査委員等の授業の参観を通して、授業のねらいの実現に向けて、自分の考えをノートに書いてそれらを伝え合って共有する活動や、話し合いの後にもう一度考えて自分の考えを広げて深める活動など、「考える、伝え合う、再び考える」という学習過程が効果的に取り入れられていることが分かった。このことから、「要素Ⅱ 伝え合い」と「要素Ⅲ 思考のまとめ」のためには「要素Ⅰ 自己の思考」が、「要素Ⅲ 思考のまとめ」のためには「要素Ⅱ 伝え合い」が必要であるといった、単元全体を通して、三つの要素を指導計画に位置付けることが大切であることを再確認することができた。

さらに、「要素Ⅰ 自己の思考」「要素Ⅱ 伝え合い」「要素Ⅲ 思考のまとめ」において、いずれも自分の考えを整理するためには、考えを書くことが有効であると考えられる。例えば、自分の考えを分かりやすく説明するために、伝える相手を意識して発表原稿を作成するなど、書く活動を通して、自分の考えが整理され、自分の考えをより明確にもつことができるのである。このことについては、調査研究の結果からも明らかになっている（48～53ページ参照）。

このように、「言語活動としての要素」の位置付け方や「自分の考えを書くこと」の重要性を踏まえた上で、教科の特性や指導内容等に応じて要素を重点化して位置付け、指導することにより、教科等及び単元（題材）の目標や授業のねらいを実現することができる効果的な言語活動となる。

(4) 「自分の言葉で表現する」とは

先行文献を基に、本研究では、思考力・判断力・表現力等を育成するためには、自分の考えを言葉で表すことが重要であると捉えた。その際、「自分の言葉で表現する」ことが言語活動の充実を図るために重要な視点であると改めて理解した。

1年次の研究では、2009年に実施したOECD生徒の学習到達度調査（PISA）の調査結果における読解力の結果に着目した。同調査では、「日本の子供は必要な情報を見付け出し取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることが、やや苦手である」と報告している。このことから、取り出した情報を関連付けたり、自分の言葉で表現したりす

ることに課題があると指摘している。

ヴィゴツキーは著書「思考と言語（新訳版）」（2010）の中で、「思想は言葉で表現されるのではなく、言葉のなかで遂行される。」と述べている。これは、頭の中で試行錯誤を繰り返しながら言葉にしていく過程で、考えが構成されていくことを示している。

また、岡本夏木は著書「ことばと発達」（1985）の中で、「学校教育では、ことばは特定の親しい人に対してだけでなく、『誰にでも』通じることばであることが要求される。（中略）可能な限り多くの人たちを納得させることができるように、最小限必要な情報を文の中に織り込んでゆかなければならない。そのためには、自分のことばをさし向ける対象として、きわめて抽象化された一般者を想定して、ことばの文脈を構成してゆくことが必要となる。」と述べている。これは、児童・生徒が自分の考えを表現する際、伝える相手に分かるように説明することが求められることを示している。

これらことから、本研究では、自分の考えを分かりやすく伝えるためには、既習事項と結び付けて言葉や表現を用いることが必要であり、互いの考えを伝え合うことで、他者の考えを取り入れて考えを再構成したり自分の考えを確かにしたりするとともに、より分かりやすく表現することにつながると考えた。また、「自分の言葉」を、「学習場面で言葉の意味を理解して使う言葉」と定義した。具体的には、これまでに学習した言葉、新しく学習する言葉、資料等から引用した言葉など、内容を理解した上で自分の考えを表現するために用いる言葉を指すこととした。

これらのことを踏まえて、「自分の言葉で表現する」ことを、次のように定義した。

学習の課題に対して自分の考えをもち、既習事項と関連付けて、分かりやすく表現したり伝え合ったりすることを通して、再び自分の考えを構成して表現すること。

4 2年次の研究のねらいと視点

(1) 研究のねらい及び研究仮説

1年次の成果と課題及び言語活動としての要素、言語活動を支える基盤の再分析から、2年次の研究は、教科の特性に応じた言語活動の在り方を明らかにすることに一層重点を置くこととし、9年間の子供の学びを見通す視点から、中学校に焦点を当てて、開発及び検証を行う。

研究を進めるに当たり、言語活動の実施上の課題を把握するために、公立中学校の生徒及び教員を対象に調査を実施した。生徒の言語活動に関する意識調査の結果、「自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとしている」と感じている割合（62%）に対して、「自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる」と感じている割合（41%）が低く、昨年度実施した公立小学校の児童を対象とした調査の結果と同じ傾向であることが分かった。

自分の考えを相手に分かりやすく伝えるためには、「自分の考えをもつこと、それらを表現するための語彙や表現方法を身に付けていること、相手意識をもって適切な語彙や表現方法を判断し選び、自分の言葉で分かりやすく表現すること」が求められる。これらの思考力・判断力・表現力等を生徒一人一人に育むことが言語活動の充実を図ることの大きな目的であり、教科の特性に応じて言語活動を効果的に位置付け、指導の工夫を行うことが必要であると捉えた。

以上述べてきた社会的背景、昨年度の研究内容及び学校の実態等を踏まえ、2年次の研究では、教科の特性に応じた言語活動の効果的な位置付けと具体的な指導の工夫を明らかにする。その際、次の2点を踏まえて、主体的に考え判断し自分の言葉で表現できる生徒を、言語活動を通して育成することを目

指すこととした。

- ・ 教科の目標を実現するための手だてとして言語活動を取り入れること
- ・ 国語科で身に付けた技能を基本に、教科で育成される思考力・判断力・表現力等を育むことに重点を置いて指導すること

〔目指す生徒像〕

国語科で身に付けた技能を基に、習得した教科の知識・技能を活用し、よく考え、判断して、自分の言葉で表現できる生徒

〔2年次の研究のねらい〕

教科の目標を実現するための言語活動を効果的に位置付けた指導の在り方を開発する。

2年次は、中学校に焦点を当てて、教科の特性に応じた言語活動の効果的な位置付けと具体的な指導の工夫を明らかにする。

〔研究仮説〕

教科の特性に応じた学習活動や他者と伝え合う活動を、言語活動として、意図的・計画的に単元（題材）の指導計画や1単位時間に設定すれば、よく考え、判断して、自分の言葉で表現できる生徒が育つであろう。

言語活動の充実を図るためには、教科の特性に応じて言語活動を意図的・計画的に取り入れ、言語活動を支える基盤となる知識・技能の活用を促す指導の工夫を行う必要がある。そこで、これらを日々の授業場面において実践するために、昨年度開発した「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」の分析を行い、より具体的に示す。さらに、教科の目標を実現するための言語活動の効果的な位置付け方と指導の工夫を行う上でのポイントを、理論と実践の両面から追究し、9教科それぞれについて示すこととした。

(2) 研究の視点

- 教科の目標を実現するための言語活動の効果的な位置付け方としての「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」の再分析

文献研究や授業参観を基に、言語活動の捉えや基本的な位置付け方について整理し、具体的に示す。

- 教科の特性に応じた効果的な言語活動の位置付け方と、指導の工夫を行う上でのポイントを示した「言語活動を効果的に位置付けるための活用シート」（以下「言語活動シート」という。）の開発

文献研究や、調査委員による授業実践を通して、教科における言語活動の効果的な位置付け方と指導の工夫について明らかにし、小・中学校共通の「言語活動シート」を開発する。

- 指導事例の作成

調査委員等との連携により「言語活動シート」を活用した指導事例を作成する。

第3 研究の方法

1 基礎研究

言語活動の充実に関する東京都の施策等の検討、他府県等における開発研究や実践例の分析を行った。また、文献研究を通して、言語と思考の関係性について認知言語学の視点から理解を図った。

2 調査研究

都内公立中学校 35 校の生徒 1,599 名及び教師 622 名を対象に、言語活動に関する生徒の意識、言語活動の指導の実態及び言語活動の充実に関する教師の意識について調査を行った。

3 開発研究及び仮説の検証

「言語活動シート」を開発し、開発したシートを活用して、言語活動を位置付けた指導計画を作成した。また、その効果を測るため調査委員等による検証授業を行った。

第4 研究の内容

1 調査研究

言語活動についての学習の実態を把握するために、質問紙による調査を行った。生徒を対象とした調査は、言語活動に関する生徒の意識や学習の実態を明らかにすることを目的とした。また、教師を対象とした調査は、言語活動の取組について指導の実態を把握し、教科における言語活動の在り方の傾向や言語活動の充実を図るための指導上の課題を明らかにすることを目的とした。調査の結果から得られた実態と、明らかになった課題を踏まえて、教科における言語活動を充実させるための具体的な働き掛けや指導の手だてを追究することとした。

(1) 生徒を対象とした調査の結果及び分析

調査の結果、自分の考えをもつことについて肯定的な回答をした生徒は 61%にとどまった。「要素Ⅰ 自己の思考」は、「要素Ⅱ 伝え合い」及び「要素Ⅲ 思考のまとめ」につながることから、言語活動の充実を図るためには、生徒一人一人に自分の考えをもたせる指導を行うことが必要であると捉えた。

また、自分の考えを表現することについて肯定的な回答をした生徒は 38%であった。自分の考えをもつことはできたとしても、それを表現することが生徒にとって難しいという実態が明らかになった。

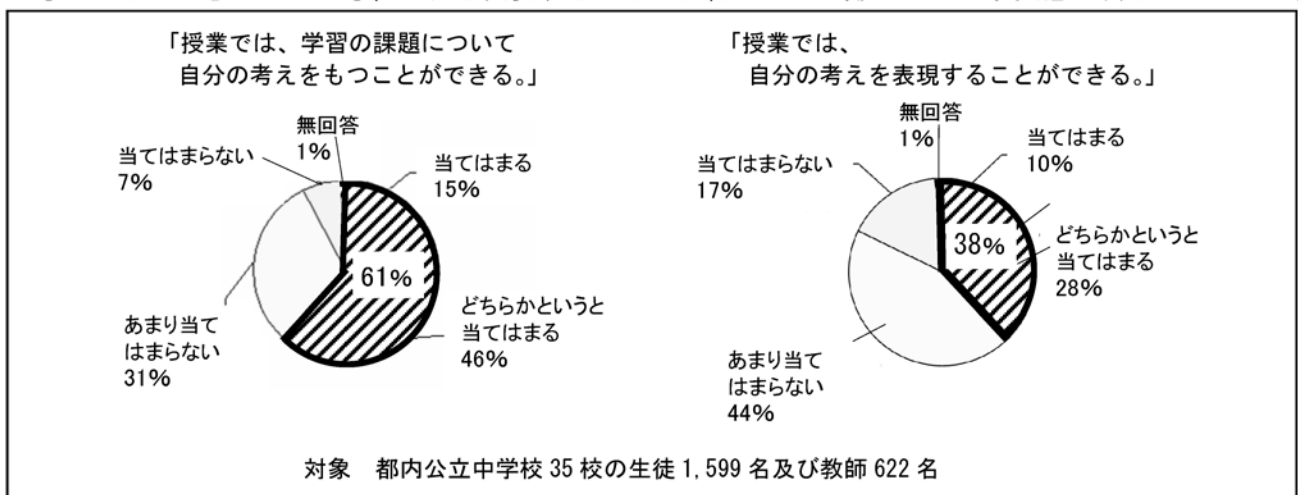


図2 生徒の実態調査の結果

(2) 教師を対象とした調査の結果及び分析

調査の結果、多く取り入れられている言語活動が教科によって様々であることが分かった（49～53 ページ参照）。また、各教科に共通した言語活動として、ノートやワークシートを用いて書く活動を重視している実態が明らかになった。得られた回答を教科別に集計した結果、次のとおりになった。

なお、言語活動の取組への回答は、複数回答とした。

国語

生徒が自分の考えをもつために、どのような活動を取り入れていますか。	
ノートに書く	100%
ワークシートに書く	95%
話し合う	82%
互いの考えを伝え合うために、どのような活動を取り入れていますか。	
説明・発表する	100%
助言し合う	80%
互いに感想を書く	77%
討論する	48%
授業のまとめで学んだことを言葉で表現するために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	100%
ノートに書く	96%
発表・説明する	90%
伝え合う	76%
論述する	65%
レポートを書く	53%
生徒が課題を解決するために、どのような活動を取り入れていますか。	
教科書・副読本・資料等	100%
ノート・ワークシートを見る	95%
本・新聞・リーフレット等	70%
インタビュー等の調査	35%
インターネット	26%
観察・実験・見学・体験等	17%

<指導の実態>

- ・多様な活動を取り入れていることから、指導事項を様々な言語活動を通して指導していることが分かる。
- ・考えをもつ場面では、書く活動が多く取り入れられている。

<教科の特性を生かした活動例>

論述や討論を取り入れた学習を円滑に行うための話す、聞く、書く、読む活動など。

社会

生徒が自分の考えをもつために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	89%
ノートに書く	87%
話し合う	68%
互いの考えを伝え合うために、どのような活動を取り入れていますか。	
説明・発表する	87%
助言し合う	54%
互いに感想を書く	50%
討論する	14%
授業のまとめで学んだことを言葉で表現するために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	90%
ノートに書く	81%
発表・説明する	74%
レポートを書く	63%
論述する	58%
伝え合う	44%
生徒が課題を解決するために、どのような活動を取り入れていますか。	
教科書・副読本・資料等	98%
本・新聞・リーフレット等	74%
ノート・ワークシートを見る	66%
インターネット	50%
インタビュー等の調査	16%
観察・実験・見学・体験等	18%

<指導の実態>

- ・言語活動全般にわたって、書く活動を多く取り入れている。
- ・教科書・副読本・資料等の情報が「言語活動を支える基盤」となっている。

<教科の特性を生かした活動例>

資料等を考えの根拠とした討論など、社会的事象を多面的・多角的に考察する活動など。

数学

生徒が自分の考えをもつために、どのような活動を取り入れていますか。	
ノートに書く	90%
話し合う	67%
ワークシートに書く	66%
互いの考えを伝え合うために、どのような活動を取り入れていますか。	
説明・発表する	82%
助言し合う	81%
互いに感想を書く	15%
討論する	3%
授業のまとめで学んだことを言葉で表現するために、どのような活動を取り入れていますか。	
ノートに書く	82%
発表・説明する	72%
ワークシートに書く	62%
伝え合う	49%
論述する	36%
レポートを書く	19%
生徒が課題を解決するために、どのような活動を取り入れていますか。	
ノート・ワークシートを見る	90%
教科書・副読本・資料等	86%
観察・実験・見学・体験等	30%
本・新聞・リーフレット等	19%
インターネット	9%
インタビュー等の調査	6%

<指導の実態>

- ・ノートに書かせる活動を多く取り入れており、「要素Ⅰ 自己の思考」、「要素Ⅲ 思考のまとめ」に当たる指導が行われている。
- ・既習事項の活用を促す際に、ノートに書いたこととする指導は、「言語活動を支える基盤」に当たる。

<教科の特性を生かした活動例>

自分の考えをレポートに書くなど、数学的活動の過程を振り返る活動など。

理科

生徒が自分の考えをもつために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	90%
ノートに書く	82%
話し合う	74%
互いの考えを伝え合うために、どのような活動を取り入れていますか。	
説明・発表する	77%
助言し合う	74%
互いに感想を書く	28%
討論する	10%
授業のまとめで学んだことを言葉で表現するために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	93%
ノートに書く	88%
レポートを書く	86%
発表・説明する	60%
伝え合う	50%
論述する	50%
生徒が課題を解決するために、どのような活動を取り入れていますか。	
ノート・ワークシートを見る	94%
教科書・副読本・資料等	92%
観察・実験・見学・体験等	90%
本・新聞・リーフレット等	38%
インターネット	29%
インタビュー等の調査	12%

<指導の実態>

- ・ワークシートに書かせる活動を多く取り入れており、「要素Ⅰ 自己の思考」、「要素Ⅲ 思考のまとめ」に当たる指導が行われている。
- ・学んだことを書く活動を多く取り入れられている。

<教科の特性を生かした活動例>

科学的な言葉や概念を使用した説明や発表、話し合いなど、科学的に考察する活動など。

音楽

生徒が自分の考えをもつために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	87%
話し合う	76%
ノートに書く	28%
互いの考えを伝え合うために、どのような活動を取り入れていますか。	
説明・発表する	87%
助言し合う	79%
互いに感想を書く	73%
討論する	17%
授業のまとめで学んだことを言葉で表現するために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	90%
レポートを書く	79%
発表・説明する	73%
伝え合う	52%
論述する	28%
ノートに書く	24%
生徒が課題を解決するために、どのような活動を取り入れていますか。	
教科書・副読本・資料等	93%
ノート・ワークシートを見る	73%
観察・実験・見学・体験等	60%
本・新聞・リーフレット等	31%
インタビュー等の調査	24%
インターネット	10%

<指導の実態>

- ・自分の考えを書く活動が多く取り入れられており、「要素Ⅰ 自己の思考」や「要素Ⅲ 思考のまとめ」に当たる指導が行われている。
- ・「言語活動を支える基盤」として教科書や実技から得たことを活用させている割合が高い。

<教科の特性を生かした活動例>

ワークシートに考えを書いた後、表現に生かす活動や、創意工夫した内容を音楽表現につなげる活動など。

美術

生徒が自分の考えをもつために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	73%
話し合う	67%
ノートに書く	52%
互いの考えを伝え合うために、どのような活動を取り入れていますか。	
助言し合う	73%
互いに感想を書く	62%
説明・発表する	48%
討論する	6%
授業のまとめで学んだことを言葉で表現するために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	73%
発表・説明する	52%
ノートに書く	39%
レポートを書く	39%
伝え合う	35%
論述する	21%
生徒が課題を解決するために、どのような活動を取り入れていますか。	
教科書・副読本・資料等	85%
ノート・ワークシートを見る	83%
観察・実験・見学・体験等	67%
本・新聞・リーフレット等	52%
インタビュー等の調査	21%
インターネット	21%

<指導の実態>

- ・自分の考えを言語化し、他者に伝える活動が多く取り入れられており、「要素Ⅱ 伝え合い」「要素Ⅲ 思考のまとめ」に当たる指導が行われている。
- ・教科書や資料から得たことを活用させている割合が高く、「言語活動を支える基盤」に当たる活動が行われている。

<教科の特性を生かした活動例>

各表現の完成段階で作品を発表し合い、互いの表現のよさを認め尊重し合う活動など。

保健体育

生徒が自分の考えをもつために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	83%
話し合う	76%
ノートに書く	48%
互いの考えを伝え合うために、どのような活動を取り入れていますか。	
助言し合う	95%
説明・発表する	54%
互いに感想を書く	47%
討論する	10%
授業のまとめで学んだことを言葉で表現するために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	79%
伝え合う	66%
発表・説明する	50%
ノートに書く	34%
レポートを書く	34%
論述する	11%
生徒が課題を解決するために、どのような活動を取り入れていますか。	
教科書・副読本・資料等	71%
ノート・ワークシートを見る	62%
観察・実験・見学・体験等	57%
本・新聞・リーフレット等	25%
インターネット	22%
インタビュー等の調査	13%

<指導の実態>

- ・助言し合う活動が多く取り入れられており、「要素Ⅱ 伝え合い」に当たる指導が行われている。
- ・教科書・副読本・資料等から得た情報を活用させている割合が高く、「言語活動を支える基盤」に当たる指導が行われている。

<教科の特性を生かした活動例>

視点を明確にした話合いや、学習カード等の構成を工夫して考えを記述したり記録したりする活動など。

技術・家庭

生徒が自分の考えをもつために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	89%
話し合う	60%
ノートに書く	56%
互いの考えを伝え合うために、どのような活動を取り入れていますか。	
助言し合う	72%
説明・発表する	67%
互いに感想を書く	54%
討論する	4%
授業のまとめで学んだことを言葉で表現するために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	86%
発表・説明する	70%
レポートを書く	67%
伝え合う	61%
ノートに書く	32%
論述する	31%
生徒が課題を解決するために、どのような活動を取り入れていますか。	
観察・実験・見学・体験等	96%
教科書・副読本・資料等	85%
ノート・ワークシートを見る	76%
本・新聞・リーフレット等	56%
インターネット	50%
インタビュー等の調査	27%

<指導の実態>

- ・自分の考えを言語化し、他者に伝える活動が多く取り入れられており、「要素Ⅱ 伝え合い」に当たる指導が行われている。
- ・実技から得たことを活用させている割合が高く、「言語活動を支える基盤」に当たる指導が行われている。

<教科の特性を生かした活動例>

実習等の結果を整理して考察したり、課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり説明したりする活動など。

外国語

互いの考えを伝え合うために、どのような活動を取り入れていますか。	
説明・発表する	88%
助言し合う	67%
互いに感想を書く	49%
討論する	11%
生徒が自分の考えをもつために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	94%
ノートに書く	81%
話し合う	64%
授業のまとめで学んだことを言葉で表現するために、どのような活動を取り入れていますか。	
ワークシートに書く	96%
発表・説明する	88%
ノートに書く	84%
伝え合う	81%
レポートを書く	40%
論述する	27%
生徒が課題を解決するために、どのような活動を取り入れていますか。	
教科書・副読本・資料等	94%
ノート・ワークシートを見る	91%
インタビュー等の調査	55%
本・新聞・リーフレット等	35%
インターネット	29%
観察・実験・見学・体験等	22%

<指導の実態>

- ・他者に向けて発表したり説明したりする活動を多く取り入れている。
- ・インタビューによって情報を獲得させる割合が高く、「話すこと」「聞くこと」を通して、4技能の習得を図ることを目指している。

<教科の特性を生かした活動例>

4技能が身に付くように、聞いたり読んだりした内容を踏まえて自分の考えなどを発信する活動など。

(3) 調査結果からの考察

調査の結果に基づいて考察したことは、次の4点である。

- 教師は、教科における言語活動の充実を図る上で、まず自分の考えがもてるように指導すること、そして自分の考えをもたせるだけではなく表現させることが重要である。
- 教師は、生徒に自分の考えを表現させる活動として書く活動を重視しているにも関わらず、生徒は自分の考えを表現することに難しさを感じているという課題が見られた。このことから、教師は、生徒が自分の考えをもち、表現できるようにする指導を工夫する必要がある。
- 教科によって要素Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに当たる活動の位置付け方に特徴が見られたことから、教科の特性に応じた効果的な言語活動の位置付け方や、言語活動を取り入れた効果的な指導方法を明らかにする必要がある。
- 言語活動を一層充実させるために、他の教科における取組を参考にしながら、教科の特性に応じて多様な活動を取り入れていくことが必要である。

2 開発研究

(1) 「言語活動シート」の開発

基礎研究及び調査研究から、教科の特性を生かし、その特性に応じて言語活動の充実を図ることが求められる。そのためには、授業を組み立てる際の指針を明らかにすることが必要であると考えた。そこで、指針となる教科別「言語活動シート」（図3）を開発した。

ア 「言語活動シート」の内容

「言語活動シート」は、主に小学校・中学校学習指導要領解説における内容、改訂の要点、内容の取扱いについての配慮事項等を踏まえ、9教科にわたって開発した（56～57 ページ 表1）。そして、このシートがより具体的で授業に活用しやすい内容になるよう、東京都教育委員会の言語能力向上推進校などの協力校における校内研修会への参加や都教委訪問、さらに調査委員による検証授業の参観等を行って作成した。

このシートは、以下①から⑤までの5点で構成されている。

① 教科の目標

教科の目標には、各教科における小学校から中学校までの9年間の系統性を考慮し、小学校及び中学校の目標を示した。

② 言語活動の指導のポイント

言語活動の指導のポイントには、教科の特性に応じた言語活動の位置付け方や言語活動を取り入れる際の留意点を示した。

③ 「言語活動としての要素」及び各要素の具体的な内容

「言語活動としての要素」には、全教科に共通する「言語活動としての要素」の定義を示した（42 ページ参照）。また、具体的な内容には、各要素における教科の特性に応じた具体的な言語活動を示した。

④ 「言語活動を支える基盤」及び具体的な内容

「言語活動を支える基盤」には、全9教科に共通する「言語活動を支える基盤」の定義を示した（43 ページ参照）。

また、具体的な内容には、言語活動を行う際の前提となる基本的事項や必要とされる学習情報についての具体的な内容を示した。

教科における「言語活動を支える

基盤」を示すことにより、既習事項の活用を促すのか、新たに習得する知識や技能として教えるべきなのかを明確にして指導することができる。と考える。

理 科		言語活動を効果的に位置付けるための活用シート	
<p>教科の目標</p> <p>小学校 自然に親しみ、自然現象について観察、実験の がを行い、問題解決の過程で、科学的な 概念を形成する。観察、実験の結果を 表す。観察、実験の結果を整理し、図 表を用いて表現する。</p> <p>中学校 自然の事象を観察し、科学的な 概念を形成する。観察、実験の結果を 表す。観察、実験の結果を整理し、図 表を用いて表現する。</p>	<p>言語活動の指導のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程では、科学的な概念や観念を使用して考えを表現する言語活動を工夫する。 予想や仮説を立てる場面では、条件に着目したり観点を明確にした上で自分の考えを整理し、表現したり、他者相互が話し合う言語活動を工夫する。 結果を整理し、考察し、結論を導き出す場面では、観察、実験の結果を表やグラフに整理し、予想を言語化し、表現する言語活動を工夫する。 観察、実験を計画する場面では、事実や根拠に基づき結果を予想したり、検証方法を話し合ったりする言語活動を工夫する。 結果を分析し解釈する場面では、図、表、グラフなどの多様な形式で表す、モデルと比較するなど、活用する言語活動を工夫する。 科学的な概念を使用して考え、説明する場面では、レポートの作成、発表、討論など知識及び技能を活用する言語活動を工夫する。 	<p>言語活動としての要素</p> <p>要素Ⅰ 自己の思考</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の課題に対して自分の考えをもち、自分の考えをどのように表現するかを考える。 観察、実験を計画する場面では、事実や根拠に基づき結果を予想したり、検証方法を話し合ったりする言語活動を工夫する。 結果を分析し解釈する場面では、図、表、グラフなどの多様な形式で表す、モデルと比較するなど、活用する言語活動を工夫する。 科学的な概念を使用して考え、説明する場面では、レポートの作成、発表、討論など知識及び技能を活用する言語活動を工夫する。 <p>要素Ⅱ 伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業に求められた予想、結果、考察をグループで伝え合い、共有する。 観察、実験の結果について、記録したことを伝え合い、共有する。 観察、実験の結果から考えたこと、考えた理由や根拠について伝え合う。 <p>要素Ⅲ 思考のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 物事との伝え合いを通して、再び自分の考えを深める。 自分の考えを体系的に整理し、発表資料を作成する。 観察、実験の結果について、記録したことを伝え合い、共有する。 結論で導いた科学的な知識や観念をキーワードにまとめて発表する。 学習のまとめでは、ノート等を振り返り、既習事項を振り返り、科学的な概念を使用して考え、レポートを作成させたり、発表会を取り入れたりする。 	<p>言語活動を支える基盤</p> <p>基本的事項の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習内容の基本的事項を把握する。 各教科等に必要となる基礎知識を理解する。 既習の知識や概念を確認する。 科学的な知識や概念を確認する。 観察、実験の方法や手順を確認する。 <p>学習情報の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験などを基にした広い意味での「教材」から情報を得る。 教科書、ノートやワークシートから既習の科学的な知識や概念を確認する。 教科書、ノートやワークシートから既習の知識や概念を確認する。 観察、実験の方法や手順を確認する。 博物館や科学センターを活用した自然体験や科学的な体験から、必要な情報を得る。

図3 教科別「言語活動を効果的に位置付けるための活用シート」

⑤ 指導の工夫

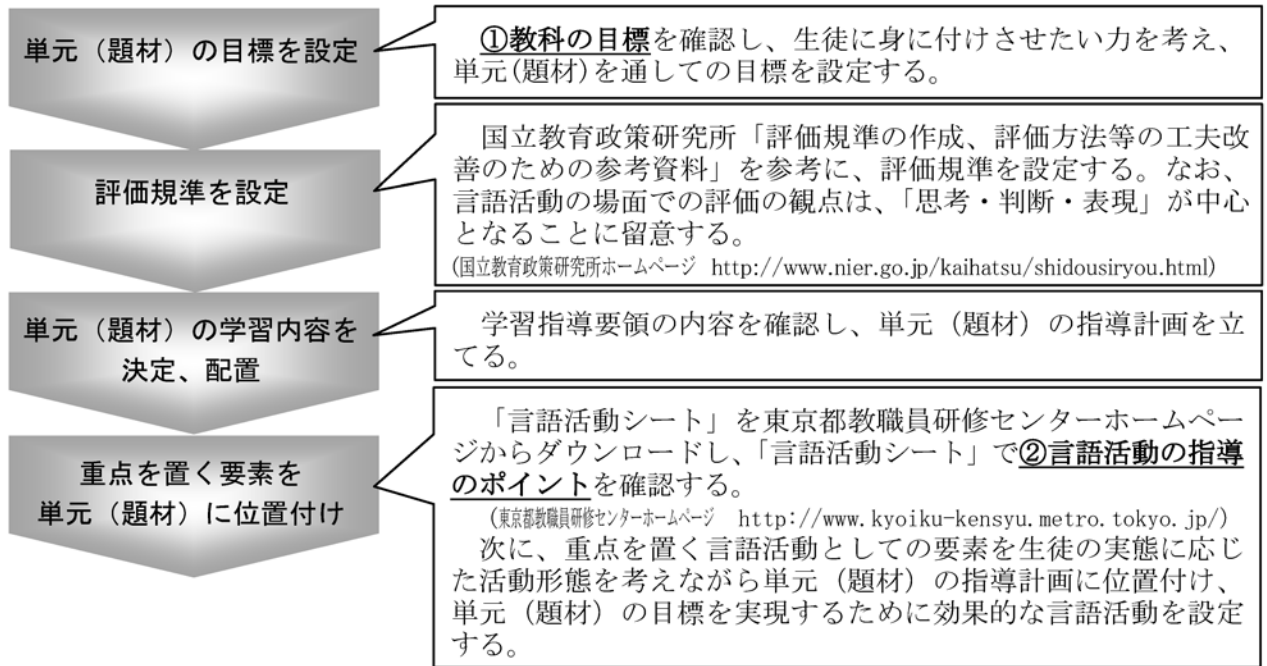
指導の工夫には、言語活動を取り入れた授業を行う際に、検証授業等から有効であると考えられる具体的な教師の手だてを示した。

イ 活用の仕方

開発した「言語活動シート」は、単元（題材）の指導計画を立てる際に、言語活動を位置付けた教科の特性に応じた効果的な授業を実施するために活用する。

このシートを活用した指導計画作成の手順は、次のとおりである。

① 単元（題材）全体を通して言語活動を位置付ける



② 本時に言語活動を位置付ける

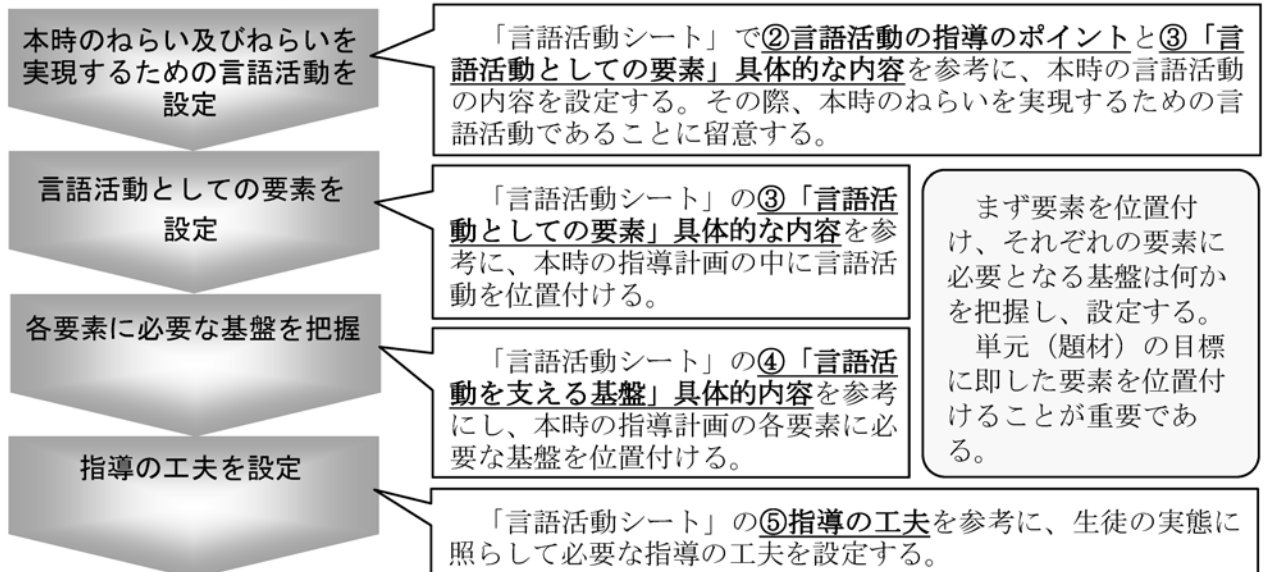


表1 教科別「言語活動を効果的に位置付けるための活用シート」の内容一覧表

	言語活動のポイント		要素Ⅰ 自己の思考
	小学校	中学校	
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域では、日常生活に必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論などの言語活動を工夫する。 言語活動を通して指導事項を指導するため、学習過程を明確にし、単元を貫く言語活動を位置付ける。 「読むこと」では、読む目的を明確にして本や文章を選んだり、目的に応じて内容を的確に捉えたり、自分の考えをまとめて交流したりする学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域では、社会生活に必要とされる発表、案内、報告、編集、鑑賞、批評などの言語活動を工夫する。 言語活動を通して指導事項を指導するため、学習過程を明確にし、単元を貫く言語活動を位置付ける。 「読むこと」では、読む目的を明確にして本や文章を選んだり、目的に応じて内容を的確に捉えたり、自分の考えをまとめて交流したりする学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事実等を知識や経験と結び付けて解釈し、文章から抜き出した情景描写と読み取れる人物の心情に着目させ、自分の考えをワークシートに書かせる。 根拠に基づく説明や情景の読みについて既習事項を想起させる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 第3・4学年では、調べたことや地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えたことを、相手にも分かるように表現する学習活動を工夫する。 第5学年では、調べたことや社会的事象の意味について考えたことを、根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し説明する学習活動を工夫する。 第6学年では、調べたことや社会的事象の意味について広い視野から考えたことを、根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し説明する学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理的分野では、地図を活用した説明、解釈を加えた論述、意見交換などの学習活動を工夫する。 歴史的分野では、時代を大規模な表現活動、各時代における変革の特色を考えて時代の転換の様子を捉える学習活動など、歴史的事象を考察・判断し、自分の言葉で表現するよう学習活動を工夫する。 公民的分野では、社会的事象についての説明、論述、議論などを通して考えを深めるなどの学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題について考えさせる場面では、地図や資料等を活用して、当事者の立場を考えた上で、自分の考えをワークシートに書かせる。 学習課題を把握し、予測させる場面では、写真や資料を提示し、自分の解釈を書かせる。
算数 数学	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し合ったりする学習活動を工夫する。 考えを表現する過程で、様々な考えを出し合い、互いに学び合う学習活動を工夫する。 見通しをもち、筋道を立てて考え表現する力を育てるために、帰納的な考えや類推的な考え、演繹的な考えを用いることができる学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、数学的に表現したり、処理する技能を高めたりする学習活動を工夫する。 思考の過程や判断の根拠などを数学的に表現して説明したり、数学的に表現されたものについて話し合ったりして解釈したりする学習活動を工夫する。 数や図形の性質などを伝え合い、互いの考えをよりよいものに改めたり、一人では気付くことのできなかったことを見いだしたりする機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考の過程や判断などを数学的に表現する場面では、ノート等を振り返るような声かけをする。 自分の考えの根拠が分かるように説明する場面では、数学的な用語や表現の活用を促す。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程では、科学的な言葉や概念を使用して考え表現する学習活動を工夫する。 予想や仮説を立てる場面では、条件に着目したり視点を明確にしたりして自らの考えを顕在化させるために、問題に対する考えを記述したり、児童相互が話し合う学習活動を工夫する。 結果を整理し、考察し、結論をまとめる場面では、観察、実験の結果を表やグラフに整理し、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化し、表現する学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験を計画する場面では、事実や根拠に基づき結果を予想したり、検証方法を検討したりしながら考えを深め合う学習活動を工夫する。 観察、実験の結果を分析し解釈する場面では、結果を図、表、グラフなどの多様な形式で表したり、モデルと比較したりするなど、考察する時間を十分に確保し、考えをまとめて表現する学習活動を工夫する。 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする場面では、レポートの作成、発表、討論など知識及び技能を活用する学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験を計画する場面では、付箋紙を活用するなどして、既習事項や生活経験に基づく事実や根拠を明らかにして予想を書かせる。 結果を分析し解釈する場面では、表やグラフ、図を活用して結果を整理し、図、絵、文章などの多様な表現方法を示して、結果から考えられることを書かせる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 合唱や合奏、グループによる音楽づくりの活動では、思いや意図を伝え合ったり、他者の考えに共感したりしながら、皆で一つの音楽をつくり出す学習活動を工夫する。 歌唱表現では、歌詞の内容や言葉の特徴を生かして歌ったり、日本語のもつ美しさを味わったりするなど、言語と音楽との関係を大切に学習活動を工夫する。 鑑賞では、楽曲や演奏の楽しさに気付いたり、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いたり理解したりする能力を育成するために、感じ取ったことを言葉で表すなどの学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に対するイメージ、思い、意図などを相互に伝え合う学習活動を位置付ける。 歌唱表現では、言語と音楽との関係を大切にすることを、歌詞の内容や言葉の特徴を生かして歌ったり、日本語のもつ美しさを味わったりする学習活動を工夫する。 鑑賞では、音楽的な特徴などを理由として挙げながら音楽のよさや美しさなどについて述べる学習活動を位置付け、主体的、創造的に味わって聴く学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱表現では、楽曲の特徴を生かした表現を追究したり、共通点や相違点を整理したりして、感じ取ったことや表現したい思い、意図をワークシートに書かせる。 鑑賞では、音楽を形づくっている要素や構造などを理由として挙げながら、音楽のよさや美しさを表現させる。
図画工作 美術	<ul style="list-style-type: none"> 表現では、発想や構想の能力、創造的な技能を高めるために、材料や場所の特徴、表したいことや用途などについて、考えたことを伝え合ったり、形や色、材料の感じなどを生かして表現したりするなどの学習活動を工夫する。 鑑賞では、身近にある作品や親しみのある作品などのよさや美しさなどを感じ取る能力を高めるために、感じたことや思ったことを話したり、友人と語り合ったりするなどの学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現では、発想や構想の能力を高めるために、アイデアスケッチで構想を練ったり、言葉で考えを整理したりするなどの学習活動を工夫する。 鑑賞では、鑑賞の能力を高めるために、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、対象の見方や感じ方を広げるなどの学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現では、形、色彩、光の効果、目的、機能など考える視点を明確にし、作品のイメージをもたせ、各自のデザインの意図や表現の工夫についてワークシートに書かせる。 鑑賞では、対象のよさや美しさ、作者の表現意図や工夫を感じ取らせ、考えさせ、味わわせるために、造形に関する言葉を豊かにし、言葉で表現させる。
体育 保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動領域では、励まし合うなど協力して学び合う活動や、資料を基に練習方法や作戦を考えて教え合ったり、成果や課題を話し合ったり、学習カードにまとめたりする学習活動を工夫する。 保健領域では、実習や実験の観察や体験を基に話し合うこと、健康に関わる概念や原則を基に、自分の生活と比較したり、身近な生活との関係を見付けたりしたことを説明するなどの学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育分野では、相手や仲間のよい演技に賞賛を送る、互いのよい演技を認め合う、互いに教え合うなどのコミュニケーションを図る学習活動を工夫する。 保健分野では、実習や実験の観察や体験を基に話し合うこと、健康に関わる概念や原則を基に、自分たちの生活や事例と比較したり、関係を見付けたりしたことについて、筋道を立てて説明するなどの学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育分野では、本時の課題(めあて)に対する練習方法や作戦内容を選ばせたり、書かせたりするとともに、合理的な動き方のポイントや練習方法、課題解決方法をワークシートの中から選ばせたり、書かせたりする。 保健分野では、自分の生活や事例と比較したり、関係を見付けたりしたことについて、ノートやワークシートに書かせる。
家庭 技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中の様々な言葉を実感や伴って理解するため、実習や観察などの実践的・体験的な活動を行い、レポートの作成や考察、思考したことを発表するなどの学習活動を工夫する。 自分の生活における課題を解決するため、インタビューや体験、比較実験などの活動、図表やグラフ、言葉にまとめ、発表し合い、活用の仕方を考えるなどの学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 技術分野では、ものづくりなどの設計や計画の場面において、製作図や栽培・飼育計画表、フローチャート等を用いて考えを整理し、よりよいアイデアを生み出すなどの学習活動を工夫する。 家庭分野では、調理、製作、幼児と触れ合う活動などの実習を行った後に、体験から感じ取ったことや気付いたことをまとめたり、その結果を整理し考察したり、共有したりするなどの学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例を示し、体験的な学習活動と生活を結び付けて考えさせ、言葉や図、絵で、自分の考えをワークシートに書かせる。 実習を行った後に、体験から感じ取ったことや気付いたことをワークシートにまとめ、結果を考察させる。
(外国語活動) 外国語	<ul style="list-style-type: none"> 外国語でのコミュニケーションを通して、その楽しさを体験し、言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さに気付かせ、積極的にコミュニケーションを図るための活動を工夫する。 体験的に外国語を聞いたり、話したりすることを通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませるとともに、日本語との違いを知ることや言葉の面白さや豊かさ等に気付かせる活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「聞くこと」では、英語を聞いて話し手の意向などを理解する。 「話すこと」では、英語を用いて自分の考えなどを話す。 「読むこと」では、英語を読んで書き手の意向などを理解する。 「書くこと」では、英語を用いて自分の考えなどを書く学習活動を工夫する。 特有の表現がよく使われる場面やコミュニケーションを円滑にするための学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現例をいくつか示し、具体的な場面や状況にふさわしい表現を生徒に選択させる。 反復練習だけでなく、自分の意見や考えを加えられるような活動を設定し、自分の考えをワークシートやノートに書かせる。

要素Ⅱ 伝え合い	要素Ⅲ 思考のまとめ	基本的事項の理解	学習情報の獲得	
<ul style="list-style-type: none"> 他者との伝え合いを通して、多様なものの見方・考え方に触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者との伝え合いを通して、再び自分の考えを深める。 自分の考えを自分の言葉で、他者によりよく表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の基本的事項を理解する。 各教科等に必要用語や記号及び表現を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験などを含めた広い意味での「教材」から情報を得る。 	
指導の工夫（例）	指導の工夫（例）	具体的な内容（例）	具体的な内容（例）	
<ul style="list-style-type: none"> ペアや班などグループでの学習形態を定着させ、司会者を立て話し合い活動に取り組ませる。 友達の意見や考えを受け、色を変えてワークシートに書き加えさせる。 他の人の考えとの違いを受け、互いに助言させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに修正点や新たな工夫を書き加えさせる。 様々な考えや意見について、気付いたことや分かったことを発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の特徴やさまりに関する事項、文字に関する事項、語彙を理解する。 書くことや話すことの材料の選び方や文章全体の構成、記述の仕方など、書き手の考えを伝える工夫を理解する。 客観的、分析的な文章の読み方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、ノート、資料等から既習事項を確認する。 教科書・資料等が表していることから必要な情報を読み取る。 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して情報を得る。 	国語
<ul style="list-style-type: none"> ワークシートやノート等に記述した、自分の考えを地図や資料等を用いて説明させる。 グループや学級での話し合いでは、教科書ノート等で既習事項を確認させ、根拠を明確にさせ、論理的に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当事者の立場に立つての討論を通して、課題解決のために何が大切かを理解させる。 学習課題に対しての話し合いを通して、自分の考えを深めるなど、再び構成し、根拠を明確にしてノートにまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題の理解に必要な社会的現象に関する用語の意味を理解する。 地図や統計などが表している意味を理解する。 新聞、読み物、統計などの資料の活用の仕方を理解する。 資料の収集、選択、処理に関する方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、ノート、資料等から既習事項を確認する。 地図やグラフ、調査データなどから、事象や特色を読み取る。 観察や調査の活動を通して、社会的現象を捉える。 	社会
<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループ、全体など、学習形態を工夫し、説明や発表をさせる。 問題場面と言葉や数、式、図、表、グラフなどを結び付けて説明させる。 考え方の共通点や相違点に着目し、話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数理的な処理のよさから、よりよい方法を考え、ノートに書かせる。 分かったことを再度操作しながら発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 見いだした性質や定理、定義の意味を理解する。 数学的な用語や記号、式、図、表、グラフなどの意味やかき方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、ノート、資料等から既習事項を確認する。 図などを活用して、問題場面や数量の関係を把握する。 具体物や教具を活用して数量を調べる。 	算数 数学
<ul style="list-style-type: none"> 付箋紙にメモした予想や結果、考察をグループで伝え合わせる。 観察・実験の結果をホワイトボード等を用いて提示しながら、発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験では、予想と結果を比べて、検証を行い、ノートやワークシートにまとめさせる。 結論で導いた科学的な知識や概念をキーワードにしてまとめさせる。 学習のまとめでは、ノート等を振り返り、既習事項を確認した上で、科学的概念を使用して考え、レポートを作成させたり、発表会を取り入れたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 見いだした性質や定理、定義の意味を理解する。 科学的な知識や用語を理解する。 観察、実験器具の名称や使い方を理解する。 観察、実験の方法や手順を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、ノート、資料等から既習事項を確認する。 観察、実験を行うことで、必要な情報を得る。 博物館や科学センターを活用した自然体験や科学的な体験から、必要な情報を得る。 	理科
<ul style="list-style-type: none"> 思いや意図を表現につなげるために表現の仕方や技能についてホワイトボードを活用して意見交換させる。その際には、学級全員がどの部分について話し合っているか分かるように、小節番号を用いるなど他者へ伝えることを意識させる。 着目する（共通事項）等を確認して表現させ、気付いたことや感じ取ったことをワークシートに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などについて、伝え合いを通して気付いたことや感じたことをワークシートにまとめさせる。 気付いたことを基に、表現に生かすための手だてを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通事項で示された用語や記号など、意味や表現について理解する。 発声や発音、楽器の奏法、音楽をつくる技能を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、ノート、資料等から既習事項を確認する。 楽曲を聴くことで、音楽を形づくっている要素への意識付けをする。 音楽を形づくっている要素の働きの違いや段階的な変化を比較して聴き、違いやよさに気付く。 	音楽
<ul style="list-style-type: none"> 各自のデザインについて、作成した意図や表現の工夫についてグループ内で説明させる。 デザインしたスケッチを見せ合うことができるように、説明を書かせる。 作成者が考えた目的・機能など意図を踏まえてアドバイスを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品について思いや願い、工夫したこと等を作品カードに書かせる。 他者との意見交換を通して、自分が得た情報を精査してデザインの構想を練り直し、スケッチさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料、光など、性質や、それらがもたらす感情を理解する。 形や色彩、材料、光の効果等表現方法や、工具等の使い方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、ノート、資料等から既習事項を確認する。 具体物から形や色彩の特徴などを基に対象のイメージを捉える。 鑑賞を通して、色彩、形、バランスなどに関する情報を得る。 	図画 工作 美術
<ul style="list-style-type: none"> ペアやトリオで動きを見合い、合理的な動き方のポイントを互いに助言させる。 試合の中で、次に予想される動きや状況等、声をかけ合うようにさせる。 チームの課題に応じた作戦について話し合いができるよう作戦ボードを活用させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の技能の達成度を振り返り、他者の助言を聞いて分かった合理的な動き方のポイントをワークシートに書かせる。 練習したことや考えた作戦を試合で活用できたかを振り返り、ワークシートに書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活における健康・安全に関する内容を実践的に理解する。 スポーツの意義や運動の取り組み方、合理的な動き方のポイントを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、ノート、資料等から既習事項を確認する。 掲示物や資料等を活用して、用具や場の準備の仕方を確認する。 運動の合理的な実践を通して、必要な情報を得る。 	体育 保健 体育
<ul style="list-style-type: none"> 実習や実験の中で互いに助言させる。 評価するポイントを示し、評価を記載したワークシートを交換させる。 他の生徒のレポートの内容や、まとめ方から学んだことを書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の実践したことを基にレポートを作成させ、発表させる。 生徒同士の相互評価を活用して、次の活動における改善点をワークシートに書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習では、火気、用具、材料などの取扱いに注意するなど事故防止に関する内容を理解する。 材料に適した加工法、工具や機器の安全な使用方法を理解する。 調理用具の正しい使い方や適切な管理方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、ノート、資料等から既習事項を確認する。 ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動から、必要な情報を得る。 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動から、必要な情報を得る。 	家庭 技術・ 家庭
<ul style="list-style-type: none"> 具体的で分かりやすい場面や状況を設定する。 ペアや班などの学習形態を工夫して説明・発表し合う活動を行う。 写真、絵、資料、ジェスチャーを活用させ、プレゼンテーションの仕方を工夫させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価や相互評価を行い、他者の発表のよいところや自分の課題に気付かせ、相手により分かりやすく伝える表現方法を考えさせる。 ワークシートやノートに学習して新たに気付いたことや重要なことをまとめて書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語の使用場面、言語の働きなどを理解する。 言語材料（音声、文字及び符号、語、連語及び慣用語、文法事項）について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、ノート、資料等から既習事項を確認する。 コンピュータや情報通信ネットワーク等を活用して必要な情報を得る。 辞書を使って単語を調べる。 	（外国語活動） 外国語

(2) 「言語活動シート」を活用した指導事例の作成

基礎研究及び調査研究から、教科における指導は、その目標や教科の特性から、指導の形態や展開、重視される活動などに違いがあることが明らかとなった。教科の目標の実現のためには、言語活動を適切に位置付けることが授業改善の視点からも重要である。そして、言語活動を位置付ける際には、教科の特性に応じたものとする必要がある。

本研究では、これらのことを踏まえ、教科の特性を踏まえて、言語活動を位置付けた単元（題材）の指導計画及び1単位時間における具体的な指導事例を作成することとした。

ア 1単位時間の指導例

言語活動の充実を図ることが求められている中、1単位時間の指導を具体的に示すことにより、その趣旨を取り入れた授業を組み立てる際に、言語活動の捉え方や指導の在り方について参考となると考えた。

イ 評価の観点

言語活動の充実を図ることが、思考力・判断力・表現力等を育むことにつながることから、「思考・判断・表現」の観点における評価は、主に言語活動を通して行うことが望ましいと捉えた。このことを踏まえて、単元（題材）の評価計画を立案することが重要であると考えた。

3 検証授業の結果と分析、考察

(1) 検証授業の概要

検証授業は、調査委員及び教員研究生の所属する都内公立中学校9校で、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語の9教科について平成23年9月から11月に実施した。

(2) 検証の視点

本研究で示した「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」が、教科のねらいの実現のために有効に位置付けられているかを検証する。検証の視点は次のとおりである。

ア 教科の目標の実現を目指すための言語活動となっているか。

イ 単元（題材）及び1単位時間における言語活動の位置付けは適切であるか。

(3) 検証の方法

検証の方法は、以下のとおりである。

ア 生徒の姿やノート・ワークシート等の記述を基に、評価規準と照らして指導の有効性を判断する手掛かりとした。

イ 逐語記録、VTR及び写真による記録を行う。VTR記録は、指導の工夫とそれに伴う生徒の変容に焦点を当てて分析を行った。

ウ 検証授業後に、言語活動の意図的・計画的な位置付けや、指導の工夫の効果について、授業者への聞き取りを行う。その際、生徒の実態や変容だけでなく、授業者の意識の変容についても聞き取り、日頃の実践に即した言語活動の在り方や指導の工夫として適していたかを検証する手掛かりとした。

(4) 検証授業の結果

単元（題材）の目標及び1単位時間のねらいを実現するためには、教科の特性を踏まえ、以下のよう
に、言語活動を意図的・計画的に位置付けることが重要であることが分かった（表2）。

教科ごとに次の4点（①言語活動の目的、②重点とすべき要素、③必要となる基盤、④効果的な言語活動例及び留意点）について記す。

表2 検証授業の結果

教科	①言語活動の目的	②重点とすべき要素	③必要となる基盤	④効果的な言語活動例及び留意点
国語	<ul style="list-style-type: none"> 学習の目的を明確にし、生徒の主体性を引き出すこと 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標や授業のねらいに即して、「要素Ⅰ」、「要素Ⅱ」、「要素Ⅲ」を重点化する 「要素Ⅰ」を「要素Ⅱ」及び「要素Ⅲ」につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の中にある言葉、文脈、生徒の体験 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用いる場合は、生徒が考えを記述する構成にすること
社会	<ul style="list-style-type: none"> 様々な資料を適切に活用して社会的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断し、適切に表現する力を身に付けるようにすること 	<ul style="list-style-type: none"> 「要素Ⅰ」では、自分の解釈を加えて論述する 「要素Ⅱ」では、地図や資料を根拠にした説明や異なる立場からテーマに沿って討論する 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象に関する用語や表現方法 地図、グラフ、写真などの資料の読み取りや活用方法 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な資料から必要な情報を読み取る、異なる立場から考え、自分の考えを述べるなど、社会的事象を多面的・多角的に考察すること
数学	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な考え方を育み、数学的な用語や表現方法を用いて説明すること 	<ul style="list-style-type: none"> 「要素Ⅰ」及び「要素Ⅱ」では、問題解決的な学習過程を通して数学的な考え方を育成（1単位時間に取り入れていくことが望ましい）する 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な用語や表現方法 	<ul style="list-style-type: none"> 導き出された定義や定理、友達の考え方を、自分の言葉で再度説明し合い、学習内容への理解を深めたり、自分の考えとして定着させたりすること
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験、観察を行う際に、予想を立て、結果を考察し整理してまとめ、科学的な概念や知識を身に付けるようにすること 	<ul style="list-style-type: none"> 「要素Ⅰ」では、予想を立て、「要素Ⅱ」では、予想を互いに確認し、考えを広げる 実験結果を考察する際、「要素Ⅰ」では、自分で考察し、「要素Ⅱ」では、自分の考えを互いに伝え合って結果を整理する 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を意識的に想起 科学的な概念、科学的な用語や表現 	<ul style="list-style-type: none"> 実験・観察の際の予想を立て、互いに確認し合う、結果を考察し、グループでまとめるなど、生徒の自己の考えを深めること 実験・観察を行い、科学的な概念を用いてレポートを作成すること
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が具体的な表現のイメージをもち、課題意識をもって授業に取り組むこと 	<ul style="list-style-type: none"> 「要素Ⅱ」が中心 主に表現についてイメージを膨らませ、知識と経験に基づいた表現の工夫について共有する 	<ul style="list-style-type: none"> 共通事項で示された用語や記号及びそれらの意味に関する理解 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート等にまとめた音楽表現の工夫を実際の表現に生かしていくこと

教科	①言語活動の目的	②重点とすべき要素	③必要となる基盤	④効果的な言語活動例及び留意点
美術	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージや思いを言語化し、作品の構想を練ること 	<ul style="list-style-type: none"> 「要素Ⅰ」では、自分の作品のイメージを図や言葉で表現する 「要素Ⅱ」では、表した作品のイメージを言葉や図で伝え合いや感想の述べ合い、アドバイスなどをする 「要素Ⅲ」では、アドバイスを基に、自分の作品の構想を練り直す 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な表現方法の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品の構想を互いに伝え合い、アドバイスをし合うなど、自分では気付かなかったアイデアを得たり、互いの創造性を磨いたりすること
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換を行うことで、生徒一人一人が自分に合った目標をしっかりと、目標の修正を行いながら、意欲的に取り組むとともに、知識・技能を身に付けること 	<ul style="list-style-type: none"> 「要素Ⅱ」では、チームの課題に応じた練習内容をチームで話し合って選択する 「要素Ⅲ」では、実際に練習やゲームを通して得たことを基に、チームの課題や自己の課題を考え、次の活動へつなげる 	<ul style="list-style-type: none"> 各種運動の特性、試合方法、効果的な練習方法、各種運動の歴史的な背景等の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 練習では、チームごとの課題に応じた練習を選択することを話し合わせたり、試合では、チームの作戦を考えさせたりすること 話し合いでは、ワークシートを活用するなど、効率化を図り、運動の時間を確保すること
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりや家族・家庭や衣食住に関する課題を計画、実践するなどの経験を通して、生活における課題を解決する能力を育むこと 	<ul style="list-style-type: none"> 作業を経て「要素Ⅱ」を位置付ける コツや課題について伝え合う場面を設定し、技術を理論的に理解し習得する 伝え合う方法は、ワークシートにコメントを記入し交換し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 用語やその意味の理解 道具等の使い方や手順などの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりなどの製作活動の過程では、他者の製作物を分析し、互いに伝え合う活動などを通して、製作の見通しをもち計画的に行うことや、アドバイスをし合うことで技能の向上を図ること
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を通して、比較級、最上級、同等比較を含む文の内容を理解したり、身近な事柄について話したり、書いたりすること 	<ul style="list-style-type: none"> 「要素Ⅰ」では、学習したことを基に、比較級を使って生徒が作成した問題を作成する 「要素Ⅱ」では、生徒が作成した問題をグループ内で交換し、アドバイスをする 「要素Ⅲ」では、アドバイスを受けた内容を踏まえて、自分が伝えたい内容をよりよい表現に修正する 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が作成した問題の作成に必要な語彙や作成方法の理解 前時までに学習した表現の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動を設定し、文章を作成する目的を明確にすること 自分で作成するだけでなく、書いたものを交換してアドバイス等を行い、表現の広がりをもつこと 英語を「話す」「聞く」「書く」「読む」機会を増やし、コミュニケーションの能力の基礎を培うために、互いに表現し合うこと

(5) 検証のまとめ

教科における学習指導案作成の際には、単元（題材）の指導計画を作成した上で、学習活動に「言語としての要素」を位置付け、それぞれに対応する「言語活動を支える基盤」を把握した。また、教科の特性に応じた言語活動が効果的に行われるように指導の工夫を指導計画に加えた。授業では、生徒のノート及びワークシートへの記述や話し合いにおける発言に、学習のねらいに即した考えが自分の言葉で表現されていた。また、授業者の授業後の感想に、単元（題材）及び1単位時間の目標の実現に向けて明確な目的をもち、教科の特性に応じた効果的な言語活動を設定することができたことや生徒の実態に応じて全体での指導及び個に応じた指導を意図的・計画的に行うことができたという実感が得られたことなどが挙げられた。

以上のことから、「言語活動シート」を活用することで、教科の目標の実現を目指すための言語活動を単元（題材）及び1単位時間に適切に設定することができたと捉える。

4 言語活動の充実を目指した校内研修の取組

各学校において言語活動の充実組織的に取り組むための校内研修の進め方を提案する。

(1) 「言語活動の充実」をテーマにした校内研修の取組例

「言語活動の充実」をテーマにした校内研修会では、言語活動における生徒の実態等を協議するために、付箋を用いて意見を出し合う方法や少人数グループで意見を模造紙に書き込んでいく方法など様々な工夫が大切である。これらの方法の効果として、他教科での生徒の様子などについての情報交換や共通理解を図る言語環境など共通の視点で課題を捉えて学び合うことが考えられる。

<p><付箋を活用して情報を分析・整理する></p> <p>【ねらい】 言語活動の充実に関するテーマに沿って、考えたことを付箋に書き、グループで分析・整理し、解決方法や手だて等を探る。</p> <p>【方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 参加者が課題だと考えることを付箋一枚につき一件記入する。 (2) グループで説明し合い、模造紙に付箋を貼っていく。 (3) 話し合いを基に、付箋紙をグループ分けして題を付ける。 (4) 全体会で発表し合い、課題を明確にし、共有する。 	<p>(例) 授業における効果的な言語活動について、「伝え合う」という視点から気付いたことを付箋に書く。付箋を分類していくつかのグループに分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成するために話し合いが効果的であった。 ・書いていても発表しない生徒には、グループ内で読み合うよう促す。 ・言語環境を整備する必要がある。
---	--

<p><模造紙を活用して多様な考えを出し合う> (45分)</p> <p>【ねらい】 共通の視点で課題を捉え、話し合いを通して、解決のための手だてや多様な考えを出し合う。</p> <p>【方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 少人数のグループをつくる。 (2) 1枚の模造紙にグループごとのテーマを書く。 テーマ例「言語活動における生徒の実態」 「本校における言語活動の充実とは」 (3) 1回約15分で、テーマに沿って話し合いを行う。 (4) 話し合いの中で出たアイデアや言葉を模造紙に自由に記入する。 (5) 1回目終了後、その場に代表者を一人残し、それぞれ別のグループへ移動する。 (6) 代表者から1回目の話し合いの説明を受け、2回目を開始する。 (7) 同じ形で3回繰り返し、最後に各グループの話した内容を発表し、全体で共有する。 	<p>(例) 授業における生徒の発表の様子や書く活動の実態等、テーマを決めて、模造紙に書き込む。他教科での生徒の様子や状況を知ったり、課題や手だてについて話し合いを進めたりすることができる。</p> <p>テーマ及び意見(例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>「生徒の実態から、育てたい力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝え合う力を育てたい。 ・自分の考えを書く力を高めたい。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>「学校全体で取り組みたいことは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の取組や掲示物など、言語環境を整えていく。 ・読書活動を推進することが大切である。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>「教科での工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由を問う発問をしている。 ・自分の課題を書かせることで、自己評価に活用している。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「考えをもたせるには」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を示し、生活と結び付けて考えさせる。 ・ノート等を振り返らせる。 </div>
--	---

(2) 言語環境を整えるための方策

調査結果を見ると、言語環境について意識をしている教員は多く、言語環境を整えるために様々な取組をしている（図4）。

さらなる言語環境の整備のため、中学校学習指導要領解説総則編において掲げられている事項として、①教師は正しい言語で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと ②校内の掲示板やポスター、生徒に配布する印刷物において用語や文字を適正に使用すること ③校内放送において、適切な言葉を使って簡潔に分かりやすく話すこと ④適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用すること ⑤教師と生徒、生徒相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくること ⑥生徒が集団の中で安心して話ができるような教師と生徒、生徒相互の好ましい人間関係を築くことなどに留意する必要がある。なお、小学校学習指導要領解説総則編においても同様の事項が掲げられている。

検証授業を行う中で、生徒の言語活動を充実させるためには、発問を明確にしたり、板書の工夫をしたりするなど、言語活動に関する指導を充実させることが重要であることが分かった。特に調査において、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」という回答があった「教師は正しい言語で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと」「校内の掲示板やポスター、生徒に配布する印刷物において用語や文字を適正に使用すること」について、全校で取り組む必要がある。

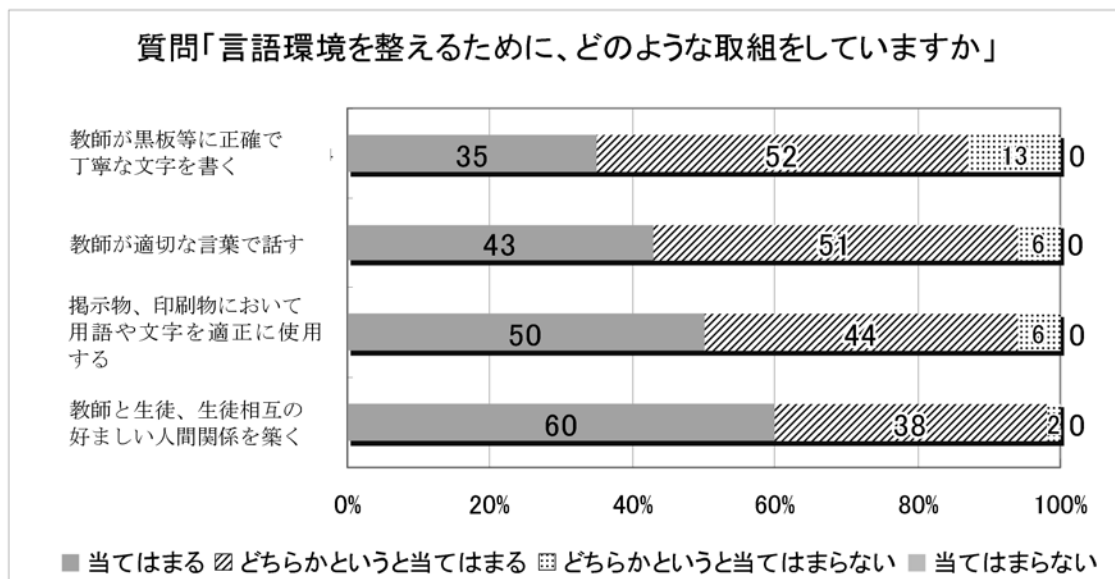


図4 言語環境を整えるための取組

第5 研究の成果と今後の取組

研究の成果として、次の2点が挙げられる。

○ 9教科にわたって「言語活動シート」を開発し、教科の特性に応じた言語活動の指導のポイントや、「言語活動としての要素」と各要素に対応する「言語活動を支える基盤」の具体的な内容や指導の工夫を明らかにした。

○ 「言語活動シート」を用いて、学習内容や指導の工夫を図ることで、生徒は、授業場面において自分の考えをもち、自分の言葉で表現することができ、言語活動の充実を図る上で効果が得られた。

今後の取組としては、パンフレット「言語活動の充実に向けて」を、区市町村教育委員会及び都内公立小・中学校全教員へ配布するとともに、学校訪問等を通して研究内容の普及を図る。

参考文献等

- ・「小学校学習指導要領」 文部科学省 平成20年3月告示
- ・「中学校学習指導要領」 文部科学省 平成20年3月告示
- ・「小学校学習指導要領解説」（総則、国語、社会、算数、理科、音楽、図画工作、家庭、体育、外国語活動）
文部科学省 平成20年8月
- ・「中学校学習指導要領解説」（総則、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語）
文部科学省 平成20年9月
- ・「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力・判断力・表現力等の育成に向けて」【小学校版】
文部科学省 平成22年12月
- ・「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力・判断力・表現力等の育成に向けて」【中学校版】
文部科学省 平成23年5月
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」 国立教育政策研究所 平成23年7月
- ・「初等教育資料6・7月号」文部科学省 東洋館出版社 2011年
- ・「中等教育資料6・7・8月号」文部科学省 ぎょうせい 2011年
- ・「東京から『言葉の力』を再生する」 東京都教育委員会 平成22年11月
- ・「適正で信頼される評価の推進に向けて」東京都教育庁指導部 平成23年11月
- ・「言葉の力ー言語能力向上推進事業ニュースー」東京都教育庁指導部 平成23年5月発行～12月発行
- ・「言語論理教育入門ー国語科における思考ー」井上 尚美著 明治図書出版 1989年
- ・「各教科等における言語活動の充実その方策と実践事例」高木 展朗編集 教育開発研究所 2008年10月
- ・『言語力』を育てる授業づくり：小学校 甲斐 睦朗・横田 叡一編著 図書文化 2009年9月
- ・『言語力』を育てる授業づくり：中学校 甲斐 睦朗・横田 叡一編著 図書文化 2009年9月
- ・「思考と言語」（新訳版）ヴィゴツキー著 柴田 義松訳 新読書社 2010年11月
- ・「フィンランド流『伝える力』が身につく本」北川 達夫著 中経出版 2010年12月
- ・「特色ある学校づくりとカリキュラム開発」安彦忠彦編著 ぎょうせい 2004年8月
- ・「学力を創るカリキュラム経営」天笠 茂編著 ぎょうせい 2011年10月
- ・「言語の研究」井上 尚美・宮腰 賢共著 学芸図書株式会社 1988年1月
- ・「新しい教育課程における言語活動の充実」財団法人 学校教育研究所 2010年2月
- ・「言語活動モデル事例集」水戸部 修治編著 教育開発研究所 2011年3月
- ・「ことばと発達」岡本 夏木著 岩波新書 1985年1月
- ・「思考と行動における言語」S. I. ハヤカワ 大久保 忠利訳 岩波書店 1985年2月 等

資料 各教科の目標の実現を図る言語活動を取り入れた指導事例

指導事例 1 国語 客観的・分析的に読み進める 第3学年「故郷」魯迅

【単元の構成について】

教科の特性として学習活動全体が言語活動であるため、全ての単元において、単元全体にわたって言語活動が位置付けられる。単元の目標を踏まえた上で、1単位時間ごとのねらいに即して、各要素を指導計画及び1単位時間の展開に効果的に配置していくことが望ましい。

文学的な文章の解釈においては、物語の細部を読み取る段階で、語句や描写に基づき、「要素Ⅰ」として読んで考える、グループで各自の考えを伝え合い検討する「要素Ⅱ」、話し合いを通して再び思考する「要素Ⅲ」を毎時間位置付ける。この学習を繰り返すことで読むための方法が身に付き、生徒が主体的に学習に取り組むことが期待される。主体性を重視する観点から、ノートを活用することが望ましいが、生徒の実態に応じてワークシートの活用も考えられる。ワークシートは、生徒の思考を促し自分の言葉で記述する構成にすること、ファイリングするなどその後の学習に活用できるように配慮することが必要である。

1 単元の目標

語句や表現、描写から登場人物の心情や作者の意図を読み取り、文章全体への理解を深め、自分のものの見方や考え方を豊かにすることができる。

2 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
語句や表現、描写から登場人物の心情や作者の意図を読み取ろうとしている。	① 描写に着目して読み、登場人物の心情や作者の意図を読み取っている。 ② 語句の効果的な使い方や表現上の工夫に着目して作品を読み深めている。	語句の意味や描写における表現の仕方を理解している。

3 単元の指導計画（全6時間）

時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	評価の観点
第1時	○学習目標を確認し学習の見通しをもつ。 ○全文を通読し、内容を大まかにつかむ。 ○登場人物の人間関係や場面設定を確認する。	・内容について意見交換をする。	関心・意欲・態度 読む能力・①・②
第2時（本時）	○冒頭部分を読み、風景についての現在の様子と「わたし」の思い出の世界との描写を比較し、心情をまとめる。	・描写から感じられることを根拠に人物の心情を考えることで分析的な読みを深める。	読む能力・①・② 言語についての知識・理解・技能
第3時	○30年前の「ルントウ」と現在の「ルントウ」の外見や内面を比較する。	・グループワークを通し、自分の考えと他の人の考えを比較し、共通点や相違点を考えることで客観的な読みにする。	読む能力・①・② 言語についての知識・理解・技能
第4時	○30年前の「ヤンおばさん」と現在の「ヤンおばさん」の外見や内面を比較する。	・グループワークでワークシートを基に、自分の考えを、しっかり伝えるようにする。	読む能力・①・② 言語についての知識・理解・技能
第5時	○再会した「わたし」と「ルントウ」の関係が昔と比べてどのように変わったか考える。 ○何が「ルントウ」を変えたのか、人物の描写から作者の意図を読み取る。	・聞いている側は、自分の考えと比べ、共通点や相違点について考える。 ・グループワークは4人程度で行う。 ※第5時の「わたし」と「ルントウ」の関係は書き換え作文から考える。	関心・意欲・態度 読む能力・①・②
第6時	○「はっと胸を突かれた」というところの理由を考え、次の「世代」に対する願いを考える。 ○最後の情景描写から「わたし」の心境や願いを考える。	※第6時は、第2時から第5時までの留意点と同様とする。	関心・意欲・態度 読む能力・①・②

4 本時の学習（第2時）

<p>【本時における言語活動】 「要素Ⅰ 自己の思考」…語句や情景描写などについて、「描写の効果」と「そのように考える理由」を記述する。 「要素Ⅱ 伝え合い」…自己の思考で記述した内容を基に、グループで、各自の考えの共通点や相違点について意見を述べ合う。 「要素Ⅲ 思考のまとめ」…話し合いを通して気付いたこと、修正点等を記述する。</p>
--

(1) ねらい

冒頭部分の風景が描写されている部分に着目して人物の心情の変化を読み取り、その後の展開を考える。

(2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点〔評価〕評価規準【観点】（評価方法）						
導 入	1 小説における三つの描写を確認する。 2 本時の学習内容とめあてについて確認する。							
	冒頭の風景が描写されている部分に着目して人物の心情を読み取り、その後の展開を考えよう							
展 開	3 教科書をグループで読み、情景描写を確認する。 4 情景描写を抜き出し、そこから読み取れる人物の心情と理由について考える。 要素Ⅰ 自己の思考 ・情景描写とそこから読み取れる心情や理由について記述する。 〈考えるポイント〉 ① 抜き出した情景描写（何から） ② 読み取れる心情（どのように） ③ 読み取れる理由（なぜ・根拠） ▼ノートの記述例 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="width: 100px;">家の様子</td> <td style="width: 100px;">故郷の眺め</td> <td style="width: 50px;">現在の様子</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td>読み取れること</td> </tr> </table> 要素Ⅱ 伝え合い ・人物の心情について自分の考えを4人グループで伝え合う。 <気付かせたいこと> ・同じ場面（言葉）でも、解釈によって多様な読み方ができる。 ・様々な読み方にふれることで、登場人物の気持ちを理解することができる。 5 「わたし」の気持ちは、20年前と現在ではどのように違うのかをまとめる。 要素Ⅲ 思考のまとめ ・ノートに、修正点や新たな考えを書き加える。	家の様子	故郷の眺め	現在の様子			読み取れること	◇グループで順番に音読する。 ◇読み終わったら冒頭にある情景描写に線を引く。 基盤：基本的事項の理解 ◇根拠に基づく説明をする。 ◇情景の描写の読みをする。 基盤：学習情報の獲得 ◇本文にある描写や文脈を捉える。 ◇次の2点について、机間指導を通して助言する。 ① 読み取れる心情は具体的に書く。 ② 理由については、どの部分からそう考えたのかを言及する。 [評価] ⇒ 既習の学習内容を活用しながら、考えをまとめている。 【関心・意欲・態度】（ノート） ⇒ 理由を明らかにしながら、読み取った心情についてまとめている。 【読む能力①】（ノート） 基盤：基本的事項の理解 ◇相手を意識した話し方・聞き方をする。 [評価] ⇒ 理由を明らかにしながら、読み取った心情について伝え合っている。 【読む能力①】（話し合いの様子） 基盤：学習情報の獲得 ◇友達の意見を取り入れながら、自分のノートにまとめる。 [評価] ⇒ 伝え合いを通して、読み取れる心情を見直し、修正したり加えたりしている。 【読む能力①】（ノート）
家の様子	故郷の眺め	現在の様子						
		読み取れること						
ま め	6 学習を振り返る。 学習の目標を達成できたかどうか、振り返る。							

【活用のポイント】

例)「批評」という言語活動を設定することで文章全体の理解を深め、ねらいの実現を目指す。
 作品を適切に批評するためには、文章を客観的・分析的に読み深めることが大切である。そのために、語句や描写などについて、その意味や効果を評価しながら読むことが有効である。例えば、情景や人物の描写が作り上げる効果について考えた上で、それらについて自分の意見をもたせる活動を設定する。

指導事例2 社会 多面的・多角的な見方を育てる 第2学年地理的分野「世界の様々な地域」

【単元の構成について】

「つかむ」「調べる・追究する」「解決する・深化する」「まとめる」の各過程に言語活動を位置付けた。まず、「つかむ」及び「調べる・追究する」段階では、「要素Ⅰ」の言語活動を位置付け、「解決する・深化する」で行う「要素Ⅱ」の際の考えの根拠となる情報収集を行う。次に、「解決する・進化する」段階では、「要素Ⅱ」の言語活動を位置付けた。ここでは、各自が考えの根拠をもってグループ同士の意見交換を行う。最後に「まとめる」段階では、「要素Ⅲ」を位置付けた。ここでは、「要素Ⅱ」を通して得た新たな情報等を取り入れ、南アメリカ州の地域的特色を白地図にまとめることを通して、思考のまとめをさせる。

1 単元の目標

南アメリカ州内の特色ある地理的事象を基に森林破壊と環境保全という学習課題について、多面的・多角的に追究・考察し、その追究の課程を通して南アメリカ州の地域的特色を理解するとともに、捉えた特色を適切にまとめ、表現する。

2 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
森林破壊と環境保全という学習課題を基に南アメリカ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	南アメリカ州の地域的特色を森林破壊と環境保全という学習課題を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	南アメリカ州の地域的特色に関する資料から有用な情報を適切に選択して読み取ったり図表などにまとめたりしている。	南アメリカ州について森林破壊と環境保全という学習課題を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

※ 言語活動の評価の観点は、「思考・判断・表現」を中心とする。

3 単元の指導計画（全6時間）

次	時	学習活動	言語に関する指導上の留意点	評価の観点
第1次	第1時	○学習課題の把握 ・南アメリカ州のあらましをつかむ。	・南アメリカ州の農業や工業の発展についての資料の読み取りから、開発が広がることよきと問題点を国民の生活から理解させ、課題意識を高めさせる。 ・既習事項を基に、地図や統計資料を活用して学習課題について仮説を立てさせる。	社会的な思考・判断・表現 資料活用の技能
	第2時	・南アメリカ州の発展に着目する。 ・学習課題を設定し、仮説を立てる。 学習課題「南アメリカ州は、どのように発展してきたのだろうか」		社会的な思考・判断・表現 資料活用の技能
第2次	第3時	○学習課題の追究 ・資料を収集し、仮説を検討する。 ・少人数グループで話し合う。	・地域的特色について、個々の条件を関連付け、その特色を考察させる。 ・資料から読み取った個々の情報を関係付けた上で、推論した内容をワークシートにまとめさせる。 ・推論した内容の根拠となる情報から結論に至る追究の過程を論理的に説明させる。	社会的な思考・判断・表現 資料活用の技能
	第4時			
第3次	第5時（本時）	○学習課題の解決と深める学習 ・南アメリカ州の農業や工業が発展してきたことよき広がる新たな問題とは何か考える。 ・追究したことを発表し、学習課題を解決する。	・発表グループには地図や資料を活用し、仮説を説明させ、さらに他のグループとの意見交換をさせることで仮説を修正させる。 ・学級全体で仮説について修正させ、学習課題を解決させる。	社会的な思考・判断・表現
第4次	第6時	○南アメリカ州についての考えをまとめる学習 ・南アメリカ州の地域的特色を白地図に工夫してまとめる。	・これまでの学習情報を基に、州の特色を簡単な言葉でまとめ、白地図に工夫して表現させる。	社会的な思考・判断・表現 資料活用の技能

※ 網掛けは、「思考・判断・表現」に関わる「言語活動に関する指導上の留意点」とする。

4 本時の学習（第5時）

【本時における言語活動】
 「要素Ⅰ 自己の思考」…前時で収集した情報を基に、自己の考えをもつ活動を行うため、本時では、重点的に取り扱わない。
 「要素Ⅱ 伝え合い」…意見交換により多様なものの見方に触れ、社会的事象を多面的・多角的に捉える。
 「要素Ⅲ 思考のまとめ」…収集した情報を整理し、自分の考えを再構成することで学習課題を解決する。

(1) ねらい

アマゾン川流域の開発に伴う森林破壊の実態を捉え、地域の開発と環境保全とのどちらを優先すべきなのかを地域の立場に立って考える中で、その両立が望ましいという持続可能な開発の重要性について、グループ活動を通じて多面的・多角的に考察する。

(2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点〔評価〕 評価規準【観点】（評価方法）
導 入	1 アマゾン川流域の開発の状況をつかむ。 ・アマゾン川流域の開発の写真(フィッシュボーン)を見たり、地図中の開発道路をペンでなぞったりして開発の規模をつかむ。	◇同じ場所の景観写真を部分的に示したり、拡大したりして同じ場所を遠近で捉えさせ、アマゾン川流域で大規模な開発とそれに伴う熱帯林破壊が進んでいることを読み取らせる。(ICT機器を活用)
開発と環境保全を両立させる手だてを考えよう		
展 開	2 持続可能な熱帯林開発の在り方を考える。 要素Ⅱ 伝え合い ・開発と環境保全を両立させる手だてを地域の立場に立ってグループで討論し、開発と環境保全の在り方について「①開発を優先する」「②環境保全を優先する」の2つの中で、どの選択が地域にとって望ましいかを考える。 3 考えた意見を発表する。 要素Ⅱ 伝え合い ・グループごとに考えた手だてを発表し、他のグループの考えと自分のグループの考えの相違点や共通点を見付ける。	基盤：基本的事項の理解 ◇これまでの学習から開発に伴う大規模な森林破壊が地域の大きな課題となっていることを確認させる。 基盤：学習情報の獲得 ◇手だてを考えさせる際に、考えの根拠を明確にして論理的に思考させる。 基盤：学習情報の獲得 ◇全グループの考えた手だてを黒板に掲示し、情報を学級全体で共有し、各グループの考えを比較・関連付けて考えやすくする。 ◇発表の際には、地図や資料等を活用するなど、考えの根拠を明確にして説明させる。 〔評価〕⇒ 開発と環境保全の関連について多面的・多角的に考察し、それを両立させる手だてについて根拠をもって考えている。 【社会的な思考・判断・表現】 (観察・ワークシート)
ま と め	4 持続可能な社会の実現に向けて行動していくことの大切さについて考える。 要素Ⅲ 思考のまとめ ・全ての発表を聞き、それを踏まえながら再度開発と環境保全を両立させる手だてを再び考える。	◇長期的な地域の発展を考えた場合、持続可能な開発の視点を踏まえることが重要であることを理解させる。 基盤：学習情報の獲得 ◇グループで討論した内容を参考に手だてについて考えさせる。 〔評価〕⇒ 持続可能な開発の重要性について理解するとともに、様々な意見を基に自分の意見を深化させている。 【社会的な思考・判断・表現】 (観察・ワークシート)

【活用のポイント】

- ・「自己の思考」では、根拠のある自分の考えをもたせるように、生徒の思考を促すような資料を選択するとともに、提示の仕方を工夫する。
- ・「伝え合い」では、多面的・多角的な見方や考え方ができるように、他者の考えに触れさせる効果的な交流の方法を提示する。また、黒板等を活用し、互いの考えを比較できるようにする。
- ・「思考のまとめ」では、伝え合いを通して得られた情報を整理し、「言語活動を支える基盤」として活用できるようにする。また、生徒の学びの過程を認め、生徒の考えを価値付ける。

指導事例3 数学 多様な方法を用いた問題解決を促す 第2学年「平行と多角形の角」

【単元の構成について】
 問題解決を中心とした展開で単元が構成されている。各時間の前半にノートに記述しながら課題解決に取り組む「要素Ⅰ」、中盤に各自の考えを伝え合い数学的価値に基づいて検討する「要素Ⅱ」を位置付ける。したがって、指導計画全体にわたって「要素Ⅰ」及び「要素Ⅱ」が位置付けられる。
 既習事項を活用する観点から、課題解決に要する時間は、学習が進むにつれて短くなっていくことが期待される。指導計画の導入段階では「要素Ⅰ」にある程度の時間を要することが予想されるが、生徒の学習状況を見極めながら、「要素Ⅱ」に重点を移行していき、話合いの時間を十分確保することが必要である。

1 単元の目標
 対頂角や平行線の性質について、観察や実験などの活動を通して見いだすとともに、これらの性質などを基にして、三角形の角についての性質を説明することができる。

2 単元の評価規準

数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
様々な事象を平行線の性質、三角形の角についての性質などで捉えるなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとしている。	平行線の性質、三角形の角についての性質などを見いだし、それが正しいことを根拠を明らかにして説明したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	平行線の性質、三角形の角についての性質などを、数学の用語や記号を用いて簡潔に表現するなど、技能を身に付けている。	平行線の性質、三角形の角についての性質などを理解し、知識を身に付けている。

※ 言語活動の評価の観点は、「思考・判断・表現」を中心とする。

3 単元の指導計画（全8時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	評価の観点
第1次	第1時	○対頂角は等しいことを理解し、対頂角の大きさを求める。	・要素Ⅰ「自己の思考」は課題解決の場面に、要素Ⅱ「伝え合い」は話合い・検討の場面にそれぞれ位置付ける。 ・言語活動を支える基盤である既習の用語や記号、表現方法（補助線を引く等）については、全体や個々に向けて発問や言葉かけを通して想起させる。 ・要素Ⅰ及びⅡを通して、帰納的な方法で示すことと、演繹的な方法で示すこととの違いを示しながら、自分の考えを筋道を立てて説明できるようにする。 ※第1時から第8時まで共通とする。	数学への関心・意欲・態度 数量や図形などについての知識・理解
	第2時	○平行線と同位角の関係を理解する。		数量や図形などについての知識・理解
	第3時	○平行線と錯覚の関係を理解する。		数学的な見方や考え方 数量や図形などについての知識・理解
	第4時（本時）	○平行線や角の性質を理解し、それに基づいて図形の性質を確かめ説明する。		数学的な見方や考え方 数学的な技能
第2次	第5時	○三角形の内角の和は180度であることを説明する。		数学への関心・意欲・態度 数学的な見方や考え方
	第6時	○三角形の内角と外角の関係を理解する。		数量や図形などについての知識・理解 数学的な見方や考え方
	第7時	○多角形の内角の和、外角の和を求める。		数学的な見方や考え方 数学的な技能
	第8時			数量や図形などについての知識・理解

※ 網掛けは、「思考・判断・表現」に関わる「言語活動に関する指導上の留意点」とする。

4 本時の学習（第4時）

【本時における言語活動】

「要素Ⅰ 自己の思考」…自力解決に取り組み、ノートに解決方法を記述する。

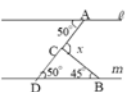
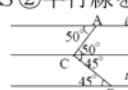
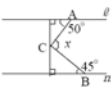
「要素Ⅱ 伝え合い」…多様な解決方法について全体で話し合い、対頂角の性質、平行線と角の関係の性質、多角形の内角の和、外角の和の性質など、多様な考え方を用いて解決できることをまとめる。

「要素Ⅲ 思考のまとめ」…本時では取り入れない。

(1) ねらい

対頂角の性質、平行線と角の関係の性質などを用いて、角の大きさを求めることができる。自分の考えを数学的な表現を用いて筋道を立てて説明したり、他者の考えを図や式などから読み取って説明したりすることができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点〔評価〕評価規準【観点】（評価方法）
導入	1 課題を把握する。 ℓ // m のとき、∠x の大きさは何度になるのだろうか。いろいろな方法で求めてみよう	
展開	2 課題解決に取り組む。 要素Ⅰ 自己の思考 ・ノートに自分の考えをかく。 S①ACまたはBCを延長して三角形をつくって考える。  $\angle x = 180^\circ - \{(180^\circ - (50^\circ + 45^\circ))\}$ $= 95^\circ$ S②平行線を引いて考える。  $\angle x = 50^\circ + 45^\circ$ $= 95^\circ$ S③垂線を引いて三角形を作って考える。  $180^\circ - (50^\circ + 90^\circ) = 40^\circ$ $180^\circ - (45^\circ + 90^\circ) = 45^\circ$ $\angle x = 180^\circ - (40 + 45^\circ) = 95^\circ$	◇ 基盤：学習情報の獲得 ◇解決のアイデアを立案させる。 ①補助線(延長する線分)を引く ②補助線(平行線)を引く ③補助線(垂線)を引く ◇活用する既習事項を確認させる。 ①平行線の錯角、三角形の内角の和 ②平行線の錯角 ③三角形の内角の和、対頂角の性質 ◇方法を思い付かない生徒に対しては、いろいろな補助線が引けることを示し、既習事項を活用できるよう促す。 〔評価〕⇒ 既習事項を活用し、数学的な表現を用いて自分の考えをかけたか。 【数学的な見方や考え方】 (ノート)
	3 助言などを基に改善を図ったり、他者の説明を聞いて分かりやすい説明になるよう助言したりする。 要素Ⅱ 伝え合い (1) 自分の考えを全体で伝え合う。 ・考えの相違点を確認する。 (2) 出された考えについてグループで話し合う。 ・それぞれの考えについて理解できているか、グループで確認する。	◇ 基盤：学習情報の獲得 ◇全体での伝え合いでは、既習事項である数学的な表現(用語・記号、表現方法)の活用を促し、理解が十分でないと感じたときには、それぞれの意味を確認する。 ◇自分の考えと違う考えは、ノートにかかせる。 ◇全体の理解が不十分な場合、友達の考えを説明させる。 ◇各グループをまわり、根拠を明確にしているかを捉え、表現の訂正や根拠の明示を促す補助発問を行う。 〔評価〕⇒ 数学的な表現を用いて、根拠を明確にして自分の考えを説明している。 【数学的な見方や考え方】 (話し合い)
まとめ	4 適用問題に取り組む。	〔評価〕⇒ 多様な方法について理解し、活用して解決できる。 【数量や図形などについての知識・理解】 (ノート・学習の様子)

【活用のポイント】

- ・多様な解決方法について、それぞれの根拠を明らかにしながら、演繹的に説明したり、他者の考えを読み取って説明したりすることが数学的な見方や考え方を身に付けることにつながる。
- ・要素Ⅱで、全体でそれぞれの考え方について検討し、定義を導き出したり、多様な考え方があることを確認したりする。伝え合いの内容をまとめにつなげていく。
- ・学習のまとめ(定義や多様な考え方等)を用いて適用問題に取り組み、学習内容の定着を図る。(この部分は言語活動には含まない。)

指導事例 4 理科 思考の過程を明確にする 第2学年 第1分野「化学変化と原子・分子」

【単元の構成について】

各実験に際しては、予想、実験結果の考察で、「要素Ⅰ」を行い、それを、班や全体で確認する「要素Ⅱ」を行う。伝え合いで得られたことを基に、さらに自分で考察する「要素Ⅲ」を行う。予想、実験結果、考察は、それぞれ色の異なる付箋紙に書き、思考の過程を可視化し、自らの考えをまとめやすくする。単元の終盤では、これまでの実験結果を基に、化学変化についてのまとめを単元全体としての「要素Ⅲ」を行い、レポートを作成する。

1 単元の目標

- ・ 2種類の物質を化合させる実験を行い、反応前とは異なる物質が生成されることを見いだすとともに、化学変化は原子や分子のモデルで説明できること、化合物の組成は化学式で表されること及び化学変化は化学反応式で表されることを理解する。
- ・ 酸化や還元の実験を行い、酸化や還元が酸素の関係する反応であることを見いだす。
- ・ 化学変化によって熱を取り出す実験を行い、化学変化には、熱の出入りが伴うことを見いだす。

2 単元の評価規準

自然現象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然現象についての 知識・理解
化合、酸化と還元、化学反応と熱に関する事物・現象に進んで関わり、それらを科学的に探究しようとするともに、事象を日常生活との関わりで見ようとする。	化合、酸化と還元、化学変化と熱に関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、原子や分子のモデルと関連付けた化合による異なる物質の生成、原子や分子のモデルの関連付けた酸化・還元と酸素との関係、化学変化に伴う熱の出入りなどについて自らの考えを導いたりまとめたりして、表現している。	化合、酸化と還元、化学変化と熱に関する観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理の仕方を身に付けている。	化合によって反応前とは異なる物質が生成すること、化学変化は、原子や分子のモデルで説明できること、化合物の組成は化学式で、化学変化は、化学反応式で表されること、酸化と還元は酸素の関係する反応であること、化学変化には熱の出入りが伴うことなどについて基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。

※ 言語活動の評価の観点は、「思考・判断・表現」を中心とする。

3 単元の指導計画（全9時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	評価の観点
第1次	第1時	○ 2種類の物質を化合させる実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見だし、原子や分子のモデルを使用して説明する。	※第1時から第5時まで共通とする。 ・ 思考ボード（グループで付箋を貼り、内容を確認するための小型ホワイトボード）を活用し、各自の考えを伝えやすくする。 ・ 発表する際も思考ボードを手持ちのメモとして活用させ、発表者が確実に内容を伝えられるようにする。 ・ 思考ボードを活用することにより、思考の過程が記録に残るようにし、まとめに生かすようにさせる。 ・ 実験の予想や結果の考察、話し合いなどは短く簡潔に行い、実験等の時間を適切に確保する。	自然現象への 関心・意欲・態度
	第2時			
	第3時			
第2次	第4時 (本時)	○ 酸化の実験を行い、酸化が酸素の関係する反応であることを見いだす。	・ 自分が表した化学式について、なぜ、その化学式でよいのか、理由を互いに説明し合う。	科学的な思考・表現 観察・実験の技能
	第5時	○ 還元の実験を行い、還元が酸素の関係する反応であることを見いだす。		科学的な思考・表現 観察・実験の技能
第3次	第6時	○ 化合物の組成は、化学式で表されること及び化学変化は化学反応式で表されることを理解する。	※第8時は、第1時から第5時までと同様とする。	自然現象への 関心・意欲・態度 自然現象についての 知識・理解
	第7時			
第4次	第8時	○ 化学変化によって熱を取り出す実験を行い、化学変化には熱の出入りが伴うことを見いだす。	・ レポートを作成させる際には、これまで行った実験結果を記載したノートやワークシートを用い、作成させる。	科学的な思考・表現 自然現象についての 知識・理解
	第9時	○ 化学変化の反応や熱の出入りなどについて、これまでの結果を基にレポートを作成する。		

※ 網掛けは、「思考・判断・表現」に関わる「言語活動に関する指導上の留意点」とする。

4 本時の学習（第4時）

【本時における言語活動】
 「要素Ⅰ 自己の思考」…鉄を燃やすとどのような変化が起こるのかを根拠を明らかにして予想する。
 「要素Ⅱ 伝え合い」…鉄と酸化鉄の性質の違いについて各グループの結果を伝え合い、情報を共有する。
 「要素Ⅲ 思考のまとめ」…実験や伝え合いを基に、性質の違いについてまとめる。

(1) ねらい

- ・本時に行う実験に興味・関心をもち、実験を正しく安全に行うことができる。
- ・酸化に関する実験を行い、事象や結果を分析して解釈し、自らの考えをまとめ表現する。

(2) 本時の展開

	学習活動・内容	◇指導上の留意点〔評価〕 評価規準【観点】（評価方法）
導 入	1 前時までに行った実験を振り返る。	◇前時に行った実験を想起させる。
展 開	2 鉄を燃やしたときの変化について知る。 <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 5px 0;">鉄を燃やすとどのような変化が起こるのか</div> (1) 鉄を燃やすとどのような変化が起こるのかを予想する。 要素Ⅰ 自己の思考 ・付箋に記入する。 (2) グループで、各自の考えを集約し、全体で各グループの予想を確認する。 (3) 実験を行い、結果を付箋に記録する。	◇付箋に予想を書かせる。 基盤：学習情報の獲得 基本的事項の理解 ◇「燃える」ことから「酸素と化合する」ことを想起させる。 ◇必要に応じて、ワークシートを確認させる。 ◇思考ボードに付箋を貼らせ、各グループで確認させる。 基盤：学習情報の獲得 ◇実験から結果を導き出させる。
展 開	3 鉄と酸化鉄の色、形、性質の違いを探す方法を考え実験する。 (1) 用意された実験道具を用いて、性質の違いを考えた方法で実験する。 ・電気を通すか。 ・磁石でつくか。 ・塩酸に溶けるか。 等 要素Ⅰ 自己の思考 (2) 結果を実験メモに記入し、付箋にまとめる。	基盤：学習情報の獲得 ◇実験メモで実験道具の確認を行う。 基盤：学習情報の獲得 ◇実験から結果を導き出させる。 〔評価〕⇒ 実験を記録し、結果をまとめている。 【観察・実験の技能】 (実験メモ)
展 開	4 鉄と酸化鉄の性質の違いをグループ別に発表する。 要素Ⅱ 伝え合い ・他のグループの発表を聞きながら、付箋に書き加える。	◇他のグループの結果の中に、自分たちが調べていなかった性質や結果の違うところなどを記入させる。
ま と め	5 鉄と酸素が反応して酸化鉄ができることをまとめる。 要素Ⅲ 思考のまとめ ・酸化鉄ができることを付箋にまとめる。 ・付箋を矢印で結びながら本時の実験結果から導き出せることをまとめる。	基盤：学習情報の獲得 ◇実験メモに添付した付箋の内容を確認させる。 〔評価〕⇒ 結果から考察し、まとめている。 【科学的な思考・表現】 (実験メモ)

【活用のポイント】

- ・理科では、観察・実験の際の予想を立て、実際に結果を分析・解釈し、それを通して得られた情報について相互に話し合う授業において言語活動が有効である。
- ・自分で考え、さらに、他者の考えを聞くことで、観察・実験から導き出すべき、基本的な概念や知識の定着につながる。

指導事例5 音楽 聴き手伝わる表現の工夫を促す 第1学年「合唱の喜び」

【題材の構成について】

題材の前半から、音楽を形づくっている諸要素と関連させた表現の工夫を考える活動「要素Ⅰ」を位置付け、その後、各自の構想の伝え合い「要素Ⅱ」を行う。そして、伝え合いを基に合唱の練習を行い、創意工夫を表現に生かす展開となっている。さらに、言語活動を支える基盤として、生徒が音楽特有の言語について、実感を伴って理解できるように、題材の前半から楽譜への書き込みについて指導する。

1 題材の目標

リズム、テクスチャ、形式、構成、強弱などが生み出す特徴を歌詞と関連付けて考え、曲のもっている魅力や美しさを感じ取りながら創意工夫して表現する。

〈教材「夢の世界を」(芙龍明子 作詞/橋本祥路 作曲)「cosmos」(ミマス作詞・作曲/富澤裕 編曲)〉

2 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽表現を工夫して表現することに主体的に取り組もうとしている。	歌詞の内容と曲想との関連を考え、それらを感じ取ってどのように創意工夫して表現したいか自分の考えをもっている。	創意工夫をした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。

※ 言語活動の評価の観点とは、「思考・判断・表現」を中心とする。

3 題材の展開（全8時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	評価の観点
第1次	第1時	○「夢の世界を」の歌詞を読み、曲の感じをつかみ、イメージを書く。 ○リズム打ちと休符打ちをする。 ○6/8拍子を理解する。 ○パート練習、合唱練習をする。	・歌詞から受ける印象を書く時に、ただの感想にならないように、どのように表現したらよいかという考えを書くように促す。	音楽表現の創意工夫
	第2時	○前時に書いた印象と表現についての発表をする。 ○パート練習、合唱練習をする。	・学級の人々の発表内容で共感する部分について自分の書いた文章に赤でアンダーラインを引かせて共感を大切にするとともに、自分だけの考えを区別できるようにする。	音楽表現の技能
第2次	第3時	○「cosmos」の歌詞を読み、曲の感じをつかみ、イメージを書く。 ○リズム打ちと休符打ちをする。 ○パート練習、合唱練習をする。	・歌詞から受ける印象を書く時に、ただの感想にならないように、どのように表現したらよいかという考えも書くように促す。	音楽表現の創意工夫
	第4時	○前時に書いた、合唱曲の印象と表現について発表する。 ○「夢の世界を」の復習をする。 ○「cosmos」のパート練習、「cosmos」の三部合唱の練習をする。	・歌詞から受ける印象を書く時に、ただの感想にならないように、どのように表現したらよいかという考えを書くように促す。	音楽表現の技能
	第5時	○「cosmos」の復習、「夢の世界を」の復習をする。	・自分の考えを伝え合い、工夫して表現させる。	音楽表現の技能
第3次	第6時（本時）	○自分たちはどう歌っているのかという現状と、これから目指すべき合唱曲の完成に向かって歌詞の内容と曲想を関連させ、表現方法を考える。 ○「cosmos」を創意工夫し、歌う。	・自分たちの考えている表現が、聴き手に伝わる歌い方になっているのか、考えさせる。	音楽表現の創意工夫
	第7時	○自分たちの合唱（「夢の世界を」）はどう歌っているのかという現状とこれから目指すべき合唱曲の完成に向かって歌詞の内容と曲想と関連させ、どのように表現したらよいか考える。 ○「夢の世界を」を創意工夫し、歌う。	・自分たちの考えている表現が、聴き手に伝わる歌い方になっているのか、考えさせる。	音楽表現の創意工夫
	第8時	○「夢の世界を」を創意工夫し、歌う。 ○「cosmos」を創意工夫し、歌う。	・今回の学習を通して、曲に合った創意工夫ができるようになったのか、まとめる。	音楽への関心・意欲・態度 音楽表現の技能

※ 網掛けは、「思考・判断・表現」に関わる「言語活動に関する指導上の留意点」とする。

4 本時の学習（第6時）

【本時における言語活動】

「要素Ⅰ 自己の思考」…歌詞の内容と曲想との関連を考え、表現方法の工夫を言葉で表現する。

「要素Ⅱ 伝え合い」…各自の考えた表現方法の工夫を発表し、ホワイトボードに生徒が自己の思考と他者の思考を比較できるようにまとめる。

「要素Ⅲ 思考のまとめ」…本時では重点的に扱わない。

(1) ねらい

歌詞の内容と曲想との関わりを考えて、聴き手に伝わるように表現とするために創意工夫して歌う。

(2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点〔評価〕 評価規準【観点】（評価方法）
導 入	1 前時の学習を思い出す。	◇自分たちの合唱をこれからどのように仕上げていくのか考えるように促す。
	2 本時のめあてをもつ。	
	歌詞の内容と曲想との関わりを考えて、聴き手に伝わるように表現しよう	
展 開	3 「cosmos」を通して歌う。	<p>基盤：学数情報の獲得</p> <p>◇〔共通事項〕から声、強弱について、働きが生み出す雰囲気を感じさせる。</p> <p>基盤：学習情報の獲得</p> <p>◇歌詞の内容と曲想について関連付けて考えさせる。 〔評価〕⇒ 声や速度、強弱を根拠にし、自分の考えをもつことができる。 【音楽表現の創意工夫】（観察）</p>
	4 合唱について、歌詞の内容と曲想を関連させ、どのように表現したらよいか考える。 要素Ⅰ 自己の思考 ・合唱表現についてよい点と改善点を書く。	
	5 書いたことを発表する。 要素Ⅱ 伝え合い ・学級全体で意見交換をする。	
	6 工夫した音楽表現をするために部分練習を行う。	<p>基盤：学習情報の獲得</p> <p>◇歌詞の内容と音楽の特徴について関連付けて考えさせる。 ◇発表した意見をホワイトボードに記入し、生徒が自己の思考と他者の思考を比較できるようにする。 ◇自己の思考と他者の思考を比較し、音楽を形づくっている要素を基によりよい音楽表現の工夫を考えさせる。 〔評価〕⇒ 響き、速度、強弱を根拠にした考えをもっている。 【音楽表現の創意工夫】（観察）</p> <p>◇自分たちで考えた音楽表現の工夫を生かした練習ができるよう、具体的手法を示す。 例) 効果的なfを出すためのクレッシェンドの歌い方 ブレスの場所 休符の取り方 など</p>
ま と め	7 創意工夫し、「cosmos」を通して歌う。	◇自分たちの歌声が聴き手に伝わる合唱により近づくことができたか考えることができるよう、最初に通して歌ったときと比較できるようにする。

【活用のポイント】

- ・ 感受した「思い」等に音楽を形づくっている要素〔リズム、テクスチャ、形式、構成、強弱〕を根拠付けて考えさせる。
- ・ 伝え合いにおいては、話し合いの形にこだわらず、自己の思考と他者の思考を比較することができるように工夫する。
- ・ 練習では、創意工夫した内容を音楽表現につなげることを目的とする。

指導事例6 美術 構想する力を高める 第2学年 「和・モダン・ランプシェード」

【題材の構成について】
 題材の前半に、個人の構想を練る活動「要素Ⅰ」を位置付け、その後、各自の構想の伝え合い「要素Ⅱ」を行う。そして、友達からのアドバイスを基に自分の作品を更に構成し直す「要素Ⅲ」を行い、作品作りに生かす展開となっている。また、後半も言語活動を通して鑑賞を行う。

1 題材の目標

使用する目的や機能を考える表現に関心をもち、用と美の調和や日本人の自然観や季節のイメージなどを基に表現の構想を練って創造的な表現の工夫を行い、互いに批評し合う活動を通して、用と美の調和のとれた洗練された美しさ、表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう。

2 題材の評価規準

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現 美術の創造活動の喜びを味わい、ランプシェードのデザインに関心をもち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり、光や材料や用具などの特質を生かしたりしようとする。 鑑賞 美術の創造活動の喜びを味わい、ランプシェードのデザインを鑑賞し、生活を美しく豊かにする美術の働きに関心をもち、主体的に見方や理解を深めようとしている。	感性や想像力を働かせて、ランプシェードの用途や機能、光の効果や日本人の自然観や季節のイメージ、使用する者の気持ちなどを基に、形や色彩、材料、光の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練っている。	感性や想像力を働かせて、和紙や針金などの材料の特質を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え見直しをもったりしながら、創造的に表現している。	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の意図と創造的な表現の工夫、目的と和風のデザインの美しさの調和などを感じ取り味わったり、生活を豊かにする美術の働きについての理解や見方を深めたりしている。

※ 言語活動の評価の観点は、「思考・判断・表現」を中心とする。

3 題材の展開（全8時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	評価の観点
第1次	第1時	○ランプシェードの用途や目的について理解し、光の効果や材料の特徴、使用するものの気持ちなどを踏まえ、日本人の自然観や季節のイメージを生かして、現実の生活場面に合った形や色彩を発想し、美しく使いやすい表現の構想を練る。	・各自のアイデアをアイデアスケッチやワークシートにまとめさせる。	美術への関心・意欲・態度
	第2時 (本時)	○ワークシートやアイデアスケッチを基に各自のデザインの意図や表現の工夫についてグループで話し合う。 ○他者の助言等を基に構想に修正を加え、企画やアイデアを練り直す。	・各自のデザインの意図や工夫について、3～4人のグループで説明し合い、他者の意見を基に、使用目的や条件に合わせて形や色彩を見直したり、季節感を高める表現の工夫などを考えさせたりして、具体的なデザインの改善点を把握し理解させる。 ・構想を練るときには、スケッチや記号、文章等を通して説明を加えたり、デザインの要点を書き入れたりして、アイデアスケッチやワークシートを改善させる。	美術への関心・意欲・態度 発想や構想の能力 鑑賞の能力
第2次	第3時	○アルミ針金や数種類の和紙、絵の具、色紙などの特質を生かし、表現方法を工夫して表現する。	・アイデアスケッチやワークシートで構想したことを基に、作品として表現する。	美術への関心・意欲・態度 創造的な技能
	第4時			
	第5時			
	第6時			
第3次	第7時	○完成作品に添付する作品カードに自作品についての説明を記述し、学習活動や工夫点を振り返る。 ○互いの完成作品を鑑賞し、批評し合って、表現の工夫や、形や色彩の効果などを感じ取る。	・作品カードを書いたり読んだりして鑑賞し、作品のよさや工夫点を理解し合う。	美術への関心・意欲・態度 鑑賞の能力
	第8時	○他者の作品から、作者の意図と創造的な表現の工夫、用と美の調和、和風のデザインのよさや美しさなどを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう。	・グループやクラス全体で批評し合うことにより、用と美が調和した作品の良さや和風のデザインについて、見方を広げる。	鑑賞の能力

※ 網掛けは、「思考・判断・表現」に関わる「言語活動に関する指導上の留意点」とする。

4 本時の学習（第2時）

【本時における言語活動】
 「要素Ⅰ 自己の思考」…前時でアイデアスケッチの作成をしたため、本時では行わない。
 「要素Ⅱ 伝え合い」…ワークシートを基に各自のデザインの意図や表現の工夫について説明し合う。
 「要素Ⅲ 思考のまとめ」…他者の助言等を基に構想に修正を加え、アイデアを練り直す。

(1) ねらい

使用目的や条件にあったねらいが達成できるような表現にするために、他者との意見交換を通して、用と美の調和と、多くの人が共通に感じる日本人の自然観や季節のイメージを生かした美しい造形表現の視点から、自らのアイデアを見直し表現の構想を練る。

(2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点〔評価〕評価規準【観点】（評価方法）
導 入	1 グループ鑑賞活動の成果や前回の学習を思い出す。 2 本時のめあてをもつ。	◇目的や機能を考え、造形的な美しさなどを総合的に考えたデザインのねらいを確認させる。
	デザインについての意見交換を通して、作品のよさや美しさへの理解を深めよう	
展 開	3 企画書やアイデアスケッチを基に各自のデザインの意図や表現の工夫をグループで説明し合う。 要素Ⅱ 伝え合い ・各自のデザインについて説明し合う。 4 他者の助言などを基に構想に修正を加え、アイデアスケッチを練り直す。 要素Ⅲ 思考のまとめ ・各自のデザインの構想に修正を加え、アイデアスケッチやワークシートを完成させる。	基盤：学習情報の獲得 ◇ランプシェードのイメージと、形や色彩の効果について関連付ける。 ◇自然や季節のイメージを表すための、形や色彩、光などの感情を理解させる。 ◇アドバイスは、作成者の意図を十分に理解し、それを踏まえて行うようにさせる。 〔評価〕⇒ 形や色彩の特徴などを基に、ランプシェードのイメージを表現する工夫について、根拠を基に発言している。 【美術への関心・意欲・態度】【鑑賞の能力】 (観察・ワークシート)
ま と め	5 本時の活動で学んだことや気付いたことを発表する。	◇次回の作業につなげられるよう、アイデアスケッチを基に、工夫した点や気付きをワークシートに記入させる。 〔評価〕⇒ 他者の意見を基に、目的や条件、多くの人が共通に感じる形や色彩、光の効果を考えながら表現の構想を練っている。 【発想や構想の能力】 (アイデアスケッチ・ワークシート)

【活用のポイント】

- ・ 制作活動が中心の授業においても、ねらいを実現するために言語活動を効果的に取り入れることができる。具体的には、自分のアイデアや表現の工夫を他者に分かりやすいように、形や色彩、材料、光の効果について説明する言語活動である。
- ・ 書いたり説明したりすることを通して、表現に込めた思いや工夫について理解し合ったり、感想や助言を伝え合うことを通して、表現がより豊かになっていく。特に、評価の観点「発想や構想の能力」を高めることにつながる。

指導事例 7 保健体育 学習課題に応じた運動の工夫を促す 第2学年「球技（ベースボール型ゲーム・ソフトボール）」

【単元の構成について】

単元の導入では、取り扱う内容の特性や歴史的な背景等について説明し、生徒がそれらを踏まえて、自分の目標を立てる「要素Ⅰ」を行い、技能を高める段階では、目標やチームの状況に応じて、「要素Ⅱ」を通して練習方法を選択する。また、練習では、助言やアドバイス「要素Ⅲ」を通して互いの技能を高められるようにする。また、授業の終わりには、チームミーティングを行い、取組を振り返らせる。振り返り考えた「要素Ⅳ」を次時の練習方法や作戦に活かせるようにする。また、単元を通して運動量を適切に確保する。

1 単元の目標

- ・基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防展開する。
- ・積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする。
- ・球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取組方を工夫できるようにする。

2 単元の評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとすることができるようになるとともに、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	球技を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取組方を工夫している。	球技の特質に応じて、ゲームを展開するための基本的な技能や仲間と連携した動きを身に付けている。	球技の特質や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力、試合の行い方を理解している。

※ 言語活動の評価の観点は、「思考・判断・表現」を中心とする。

3 単元の指導計画（全 10 時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する 指導上の留意点	評価の観点	
第1次	第1時	○単元を通じた学習やソフトボールの特性について知る。(オリエンテーション) ○ボール操作をする。 ※本時のねらい等の振り返りをする。(毎時間実施)	・取り扱う内容の特性をつかませ、自分の目標を立てさせる。	運動への関心・意欲・態度	
	第2時	○ボール操作をする。	・適切な話し合いで技術的な課題などの関わり方を学ばせる。 ・基本的な操作について互いに助言させる。	運動についての知識・理解 運動についての思考・判断 運動の技能	
第3時	○基本的なバット操作をする。	運動への関心・意欲・態度 運動の技能			
第4時	○基本的なバット操作をする。	・分担した役割を果たす意義を理解させる。 ・自己のチームの課題に合った練習を選択させ、また練習方法の工夫をさせる。 ・自己のチームや相手チームに応じた作戦や戦術を話し合う。		運動への関心・意欲・態度 運動の技能	
第2次	第5時		○打たれたときのボールの送球と捕球をする。 ○ポジションの役割に応じたカバーをする。	・自己のチームや相手チームに応じた作戦や戦術を話し合う。	運動についての思考・判断 運動についての知識・理解
	第6時		○打たれたときのボールの送球と捕球をする。 ○ポジションの役割に応じたカバーをする。		運動への関心・意欲・態度 運動の技能
	第7時		○チーム練習を行う。 ○簡単なルール・条件付きでの試合を行う。		運動への関心・意欲・態度 運動についての思考・判断
第3次	第8時(本時)	○チーム練習を行う。 ○簡単なルール・条件付きでの試合を行う。	・自己のチームや相手にチームに応じた作戦や戦術を話し合わせる。	運動への関心・意欲・態度 運動についての思考・判断	
	第9時	○正式なルールに近付けた試合を行う。		運動の技能 運動についての知識・理解	
	第10時	(リーグ戦)		運動への関心・意欲・態度 運動についての思考・判断	

※ 網掛けは、「思考・判断・表現」に関わる「言語活動に関する指導上の留意点」とする。

4 本時の学習（第8時）

【本時における言語活動】
 「要素Ⅰ 自己の思考」…チームの課題に合った練習について自分の考えをもつ。
 「要素Ⅱ 伝え合い」…前時の授業における活動を振り返り、チームの課題とそれに合った練習方法を選択する。
 「要素Ⅲ 思考のまとめ」…練習と試合を実践に取り入れ、その内容を踏まえ、自分とチームの活動を振り返る。

(1) ねらい

- ・提供された練習方法から自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶ。
- ・練習した内容を試合に生かす。

(2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点〔評価〕評価規準【観点】(評価方法)
導 入	1 本時のねらいや留意点について確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">守備の連携を高めよう</div> <p>要素Ⅰ 自己の思考 要素Ⅱ 伝え合い ・前回の授業を振り返り、課題に合った練習方法を話し合っ て選択し、振り返りカードに記入する。 ・各チームで準備運動を行う。</p>	◇指導上の留意点〔評価〕評価規準【観点】(評価方法) ◇移動黒板にめあてや、活動の流れ、練習する場所などを提 示し、生徒が見通しをもてるようにする。 ◇タイブレーカーゲームの方法について確認する。 基盤：学習情報の獲得 基本的事項の理解 ◇前回までの学習したことを確認し、練習方法の選択に生かす ようにさせる。 〔評価〕⇒ チームの課題に合った練習方法を選択している。 【運動についての思考・判断】 (振り返りカード)
展 開	2 チーム練習を行う。 要素Ⅱ 伝え合い ・互いのプレイについて助言し合って練習する。 ・各チームで選択した課題に応じた練習を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 〈校庭〉  </div> 3 タイブレーカーゲームを行う。 要素Ⅱ 伝え合い ・互いのプレイについて助言し合ってゲームをする。 ・ノーアウト2塁からゲームを始める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 〈校庭〉  </div>	基盤：学習情報の獲得 ◇これまでの練習やゲームを基に、習得した技能を想起して 助言を行わせる。 ◇チームの課題に対し、効率的・効果的な練習を行う。 ◇場所、時間の使い方など意識させる。 ◇守備の連携が図れるよう声を掛け合わせる。 ◇ノックをするときは、校庭の中央に向かって打つように させる。 ◇守備や打撃の攻防をできるだけ多く行えるようにタイ ブレーカーゲームを取り入れる。 基盤：学習情報の獲得 ◇これまでの練習やゲームを基に、習得した技能を想起して 助言を行わせる。 ◇守備位置での準備姿勢、ポジションごとの基本的な動きを 意識させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> タイブレーカーゲーム ・守備の練習するために、ノーアウト2塁からプレイを 始める。 </div>
ま と め	4 チームミーティングを行う。 要素Ⅲ 思考のまとめ ・チームミーティングから練習・試合内容について感想等 をまとめ、振り返りカードに記入する。	基盤：学習情報の獲得 ◇チーム練習、試合での取組を振り返らせる。 ◇技術的な課題、チームのメンバーの関わり方について 振り返りを行わせる。 〔評価〕⇒ 話合いに積極的に参加しようとしている。 【運動への関心・意欲・態度】 (行動観察)

【活用方法のポイント】

- ・技能を高めていくには、自分自身の課題を理解し、課題に応じた練習を行う必要がある。チームで話し合っ
て練習内容を決定することで、チームの課題についても共有化を図り、技能向上の意識をもちながら、工夫を
しながら運動をすることにつなげる。
- ・自分の課題をもつ上では、運動の特性やその運動の歴史や背景も理解することが重要であることから、単
元の初めに、オリエンテーションを行い、学習内容の見通しを十分にもたせる。

指導事例 8 技術・家庭 製作の見通しをもつ工夫 第1学年「製作の手順を考えて製作しよう」

【題材の構成について】

単元の初めには、作業の製作工程を考える「要素Ⅰ」を位置付ける。また、各作業では、作業の手順や方法を自分で考える「要素Ⅰ」を行い、実際の作業を行う。そして、作業の状況を互いに確認し、気付いたことを伝え合う「要素Ⅱ」を行うことにより、その後の作業の改善点に気付くとともに、見通しをもち、作業の方針を再考し、作品を製作する。単元の終末では、互いの作品を評価する「要素Ⅱ」を通して、材料や加工、よりよい使い方について再考する「要素Ⅲ」を行い、理解を深める。

1 題材の目標

材料と加工に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境との関わりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

2 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
材料と加工に関する技術にかかわる倫理観を身に付け、知的財産を創造・活用しようとするとともに、材料と加工に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。	使用目的や使用条件に即して製作品の機能と構造を工夫するとともに、材料と加工に関する技術を適切に評価し活用している。	製作図をかき、部品を加工し、組立て及び仕上げができる。	構想の表示方法についての知識を身に付け、材料と加工に関する技術と社会や環境との関わりについて理解している。

※ 言語活動の評価の観点とは、「思考・判断・表現」を中心とする。

3 題材の指導計画（全9時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	評価の観点
第1次	第1時	○自分が製作しようとする製品の作業手順を考える。	・能率的な作業手順を、部品表や製作工程表の作成を通して考える。	生活や技術への関心・意欲・態度
第2次	第2時	○材料に適した工具や機器を使用し、けがきを行う。	・それぞれの作業の特徴や使用工具についてワークシート等を用いてまとめ、よりよい作業方法について考える。	生活の技能
	第3時 (本時)	○材料に適した工具や機器を使用し、切断を行う。		生活の技能 生活を工夫し創造する能力
	第4時	○材料に適した工具や機器を使用し、組立てを行う。		生活の技能 生活を工夫し創造する能力
	第5時 第6時	○材料に適した工具や機器を使用し、部品加工を行う。		生活の技能 生活や技術についての知識・理解
	第7時 第8時	○材料に適した工具や機器を使用し、組立てを行う。		生活の技能 生活や技術についての知識・理解
	第3次	第9時		○完成した製作品を評価し、次のものづくりへの課題を考える。

※ 網掛けは、「思考・判断・表現」に関わる「言語活動に関する指導上の留意点」とする。

4 本時の学習（第3時）

【本時における言語活動】

「要素Ⅰ 自己の思考」…本時の板材の切断について、よりよい工具の使用方法について考える。

「要素Ⅱ 伝え合い」…他者の板材の切断面を観察し、評価（コメント）を書く。さらにコメントを渡して評価を互いに伝え合う。

「要素Ⅲ 思考のまとめ」…「伝え合い」を基に、よりよい作業について、自分の考えを深める。

(1) ねらい

切断に用いる工具の特徴と安全な加工方法を知り、材料に適した工具・機器を用いて適切な加工方法で切断を行う。

(2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点【評価】 評価規準【観点】（評価方法）
導入	1 本時の目標及び作業内容を知る。	◇材料を配布し準備をする。 ◇前時までの作業内容について触れ、本時の作業内容に対して自分なりの考えをもたせる。
	材料に適した工具・機器を使って、けがき線に沿って安全に切断しよう	
展開	2 切断作業を行う。 (1) 前回の切断についてよかった点、改善点について考える。 要素Ⅰ 自己の思考 (2) 本時の板材の切断について、よりよい工具の使用方法について考える。 ・万刀で板材をしっかりと固定する。 ・のこぎりを引くときに力を入れる。 ・けがき線に対して正面に構える。 (3) 考えたこと基に、切断を行う。	◇工具の扱い方について説明し、工具を準備させる。 ◇工具の扱いに注意させ、安全な作業に努めるように確認する。 基盤：学習情報の獲得 ◇前回の切断について、今回の作業で活用できる既習事項を考えさせる。 ◇必要に応じて、ワークシートを確認させる。 基盤：基本的事項の理解 ◇切断の仕方を、材料の固定方法や工具の使用方法についてワークシートの項目にしたがって理解させる。 ◇正しい姿勢が取れていなかったり、引く時に力を入れていない生徒には、他の生徒の作業を見せたり、どのようにするとよいか尋ね、言語化させて作業させる。 〔評価〕⇒ 工具を適正に使用し、切断を正確に安全に行うことができる。 【生活の技能】 (観察・材料・ワークシートの記入)
	3 切断面を相互評価し合う。 要素Ⅱ 伝え合い (1) 他者の切断面を観察し、評価（コメント）を書く。 (2) 評価を互いに伝え合う。（コメントを渡す）	◇作業机（グループ）ごとに相互評価を行わせる。 基盤：学習情報の獲得 ◇次時の組み立て作業（やすりがけ）に生かせる評価をさせる。 〔評価〕⇒ 相手の作業のよかった点、改善点を適切に評価している。 【生活を工夫し創造する能力】 (観察・ワークシートの記述)
	4 他者からの意見を参考に自分の作業について再検討する。 要素Ⅲ 思考のまとめ ・「伝え合い」を基に、よりよい作業について、自分の考えを深める。	基盤：学習情報の獲得 ◇ワークシートに記入したポイントを活用して、よりよい作業について、自分の考えを深めさせる。 〔評価〕⇒ 他者からの意見や自己分析を基に、次時の作業についての見通しをもつことができたか。 【生活を工夫し創造する能力】 (ワークシートの記述)
まとめ	5 材料の片付け、身の回りの清掃を行う。 6 本時のまとめ、次回の予告を行う。	◇身の回りの整理、整頓や片付けが安全な作業につながることを理解させる。 ◇次時の見通しをもたせる。

【活用のポイント】

切断、部品加工、組み立てなどの作業の場面であっても、抽象的な「感覚」だけでなく、「言葉」で考えを整理し、よりよい作業方法について検討することは大切である。さらに考えを他者に「話す」ことや、「書く」こと、そして他者の意見を「聞く」ことなどにより、学習に対する理解も深まり、工夫して創造する能力を育てていくことができると考える。

指導事例 9 外国語 伝え合いを通して表現能力を高める 第2学年「比較級の用法」

【単元の構成について】
 本単元で扱う文法事項は形容詞及び副詞の比較変化であり、比較級、最上級、同等比較の用法を段階的に導入する。1時間目に新出表現を理解する活動「要素Ⅰ」を位置付け、2時間目に新出表現を活用して表現させるコミュニケーション活動「要素Ⅱ」及び、友達からのアドバイスを基に相手によりよく伝える表現の仕方を再考させる「要素Ⅲ」を行う。このような活動を繰り返すことで、比較級、最上級、同等比較を含む文を用いた表現の能力を高める。

1 単元の目標

- ・比較級、最上級、同等比較の用法を含む文を聞いたり読んだりして、その内容を正しく理解する。
- ・比較級、最上級、同等比較の用法を含む文を用いて、身近な事柄について話したり書いたりする。

2 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
間違うことを恐れず、積極的に自分の考えなどを話したり、書いたりしている。	比較級、最上級、同等比較の用法を含む文を用いて、身近な事柄について話したり書いたりして、自分の考えや気持ち、事実などを誤解なく相手に伝えることができる。	比較級、最上級、同等比較の用法を含む文を聞いたり読んだりして、相手の意向や具体的な内容など、相手が伝えようとするものが理解できる。	比較級、最上級、同等比較の用法を含む文の意味・用法を理解している。

3 単元の指導計画（全8時間）

時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	評価の観点
第1時	○比較級の導入 ○本文の読解・音読練習	・既習の表現と関連付けて、新出表現を理解させる。新出表現の文構造や語法を理解させる。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語理解の能力 ・言語や文化についての知識・理解
第2時 (本時)	○比較級を用いたコミュニケーション活動	・身近な事柄について説明する文を自ら考え、書く活動を行う。生徒同士の学び合いの場を設定する。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語表現の能力
第3時	○最上級の導入 ○本文の読解・音読練習	・既習の表現と関連付けて、新出表現を理解させる。新出表現の文構造や語法を理解させる。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語理解の能力 ・言語や文化についての知識・理解
第4時	○最上級を用いたコミュニケーション活動	・身近な事柄について説明する文を自ら考え、話す活動を行う。生徒同士の学び合いの場を設定する。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語表現の能力
第5時	○more を付ける比較級及び most を付ける最上級の導入 ○本文の読解・音読練習	・既習の表現と関連付けて、新出表現を理解させる。新出表現の文構造や語法を理解させる。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語理解の能力 ・言語や文化についての知識・理解
第6時	○more を付ける比較級及び most を付ける最上級を用いたコミュニケーション活動	・身近な事柄について説明する文を自ら考え、話す活動を行う。生徒同士の学び合いの場を設定する。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語表現の能力
第7時	○同等比較の導入 ○本文の読解・音読練習	・既習の表現と関連付けて、新出表現を理解させる。新出表現の文構造や語法を理解させる。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語理解の能力 ・言語や文化についての知識・理解
第8時	○同等比較を用いたコミュニケーション活動	・身近な事柄について説明する文を自ら考え、書く活動を行う。生徒同士の学び合いの場を設定する。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語表現の能力

4 本時の学習（第2時）

<p>【本時における言語活動】</p> <p>「要素Ⅰ 自己の思考」…どの表現を使用すれば自分の考えや気持ち、事実などをよりよく伝えることができるか考えさせる</p> <p>「要素Ⅱ 伝え合い」…作成した問題を4人グループでお互いに読み合い、グループのメンバーが1文ずつアイデアを出し、問題文を付け加える</p> <p>「要素Ⅲ 思考のまとめ」…ワークシートに、修正点や新たな工夫を書き加える。</p>

- (1) ねらい
比較級の用法を含む文を用いて、身近な事柄について書く。
- (2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点〔評価〕 評価規準【観点】（評価方法）
導入	<p>1 前時に学んだ表現を想起する。</p> <p>2 本時のねらいを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な形容詞を比較級にする。 教師が出題する比較級の問題を聞いて、解答する。 	<p>◇ICT 機器や黒板掲示を活用し、視覚的に情報を伝え、形容詞の比較変化や比較級の用法を用いた文の意味や構造などを想起させやすくする。前時の復習から本時のねらいへスムーズに迫り、比較級を用いて文を書くことへ関心・意欲をもたせる。</p>
	<p>比較級を使って問題を作ろう</p>	
展開	<p>3 比較級を用いて各自で問題を作成する。</p> <p>要素Ⅰ 自己の思考</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題文（クイズ）を考え、自分が考えた英文をワークシートに書く。 (例) What am I? I am bigger than a cat. 	<p>基盤：学習情報の獲得</p> <p>◇必要な語彙や問題（クイズ）の作成方法を確認する。</p> <p>◇様々な形容詞の比較級を使わせて、相手に伝えたい内容を伝えるのに適切な表現を考えさせる。</p> <p>◇動物の特徴をどのように表現するのか例示して、既習の表現を使わせたり、未習語に触れさせたりすることで、語彙を広げる。</p> <p>◇教科書、ワークシート、ノート、辞書、掲示などから必要な情報を得て活用させる。</p>
	<p>4 問題（クイズ）の問題を読み合い、アドバイスし合う。</p> <p>要素Ⅱ 伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> グループになり、各自のワークシートを時計回りで、それぞれが作成した問題（クイズ）にアドバイスする。 	<p>◇活動の目的と活動の手順を伝える。</p> <p>①友達の作文を読み、内容を理解する。</p> <p>②問題（クイズ）としてより分かりやすく相手に伝えられるよう英文の内容について友達にアドバイスする。自分のアイデアを一文付け加える。</p> <p>③比較級が正しく書けているか確認する。誤りがあれば訂正する。</p> <p>◇他の生徒の作成した問題（クイズ）を読み、一文付け加えることで、様々な形容詞や既習の表現を使って英文を作ることができることに気付かせる。</p> <p>◇比較級を用いて大きさや速度などの違いを多様に表現できる。</p> <p>〔評価〕 ⇒ 間違えることを恐れず、積極的に自分の考えなどを話したり、書いたりしている。</p> <p>【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 (グループ活動の様子)</p>
	<p>5 他の生徒の発表のよいところを取り入れ、各自で問題（クイズ）を書き足し、修正する。</p> <p>要素Ⅲ 思考のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに、修正点や新たな工夫を書き加える。 	<p>基盤：学習情報の獲得</p> <p>◇他の生徒が考えたアイデアのよいところを取り入れる。</p> <p>〔評価〕 ⇒ 伝え合いを通して、英文を見直し、修正したり加えたりしている。</p> <p>【外国語表現の能力】（ワークシート）</p>
まとめ	<p>6 学習を振り返り、次時の見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の目標を達成できたかどうか振り返る。 	<p>◇次時からは1グループずつ問題（クイズ）の出題者となり、英語を話す活動を行う。</p>

【活用のポイント】

- 英語の基礎的・基本的な知識・技能を習得するためには、反復練習だけでなく、実際に言語の働きや言語の使用場面を踏まえた自己表現活動を通して定着を図ることが大切である。
- 具体的な場面や状況を設定し、その場に合った適切な表現を自ら考えて活動できる言語活動を設定することが大切である。
- 新出表現については、身の回りのどのような場面で使用したくなるかイメージさせたり、これまでの経験を想起させたりする指導の工夫が有効である。

研究に携わった所員・教員研究生・協議委員・調査委員等

所 長	岩佐 哲男 (平成 23 年 7 月 15 日まで)
	高野 敬三 (平成 23 年 7 月 16 日から)
研修部長	坂本 和良 (平成 23 年 7 月 31 日まで)
	金子 一彦 (平成 23 年 8 月 1 日から)
教育開発課長	樋口 豊隆
主任指導主事	針谷 玲子

○自尊感情や自己肯定感に関する研究

統括指導主事	青木 由美子、角 康宏、海老江 直子		
指導主事	村上 卓郎、濱辺 理佐子、山本 浩司、佐々木 由美子、高島 由紀子		
教員研究生	新宿区立花園幼稚園	主任教諭	中村 敦子
	調布市立調和小学校	主任教諭	星 彰
	町田市立町田第一小学校	主任教諭	吉本 一也
	八丈町立富士中学校	教 諭	宮崎 裕子
	都立八王子拓真高等学校	教 諭	寺田 早紀
	都立青鳥特別支援学校	主任教諭	宮原 希
研究協力大学	慶應義塾大学教職課程センター	教授	伊藤 美奈子
	慶應義塾大学文学部心理学専攻	教授	山本 淳一
研究協力校	国分寺市立第五小学校	校長	松本 信之
	清瀬市立清瀬中学校	校長	千野 和子
	東京都立第三商業高等学校	校長	天野 光芳
	東京都立墨田特別支援学校	校長	廣瀬 正雄

○言語活動の充実に関する研究

統括指導主事	海老江 直子、青木 由美子、角 康宏		
指導主事	浅野 あい子、濱辺 理佐子、片桐 あかね、高瀬 智子、山根 まどか		
教員研究生	江東区立第三砂町小学校	主任教諭	大曾根 寛枝
	世田谷区立松丘小学校	教 諭	高木 孝輔
	昭島市立拝島第一小学校	主任教諭	伊藤 唯生
	台東区立柏葉中学校	教 諭	石川 彰子
	都立府中西高等学校	主幹教諭	富樫 紀仁
	都立久留米特別支援学校府中分教室	主任教諭	川池 順也
協議委員	千葉大学教育学部	教授	天笠 茂
講師	東京女子体育大学理事及び教授	田中 洋一	
調査委員	台東区立上野中学校	主任教諭	野口 大和
	足立区立千寿青葉中学校	主任教諭	山本 恵悟
	武蔵野市立第六中学校	主幹教諭	中村 みどり
	青梅市立第一中学校	主任教諭	滝瀬 いづみ
	府中市立府中第一中学校	主任教諭	蒲 健一
	府中市立府中第五中学校	教 諭	中野 英水
	府中市立府中第八中学校	主任教諭	菅原 尚志
	町田市立木曾中学校	主任教諭	戸井田 修

東京都教職員研修センター紀要 第11号

印刷物登録23年度 第32号
(東京都教育委員会主要刊行物)

平成24年3月 発行

編集・発行 東京都教職員研修センター研修部教育開発課
所在地 〒113-0033 東京都文京区本郷一丁目3番3号
電話 03(5802)0319

印刷所

所在地 〒263-0002 千葉県千葉市稲毛区山王町102-5
電話 043(423)1101
